

京	都	府
<p>1・6 西陣機業界の19団体、不況下における審定価格の改正を税務署に交渉すること、西陣織物商取引法の改善等を決定。 日出 1・7</p> <p>1・24 大日本ホテル、約束手形の現金化できず、破産宣告の申立てをうける。 日出 1・25</p> <p>1・一 市営電気、従量料金制を採用。 京都市政史</p> <p>2・一 茶業組合連合会議所、製茶試験場分場(相楽郡中和東村)を設置。 府茶業史</p> <p>2・一 宇治川電気(株)、事務所を京都電灯(株)内に移転。 宇治電之回顧</p> <p>2・一 染織試験場に色染部増設。 西陣織物同業組合沿革史</p> <p>3・4 米国、ハンブルグ汽船会社主催の世界大観光団500名のうち150名入浴。 日出 3・6</p> <p>3・25 丹後自動車(株)、営業費増嵩で資本金減耗し営業一時中止。 日出 3・26</p> <p>3・一 京都線香薫物製造卸売業組合設立。 府誌下</p> <p>4・3 京都製産品即売館開設(売上少なく赤字)。 日出 4・13</p> <p>4・19 郡是製糸(株)本社工場約900坪全焼、損害約3万円。 日出 4・20</p> <p>4・20 舞鶴博覧会開催(～5・15)。 日出 4・21</p> <p>4・21 米国の排日運動に対し京都実業家抗議大会開催。 京都貿易史</p> <p>4・一 綾部製糸(株)設立。 三丹蚕業郷土誌</p> <p>4・一 寺内製作所設立。 京都市学区大観</p> <p>5・一 丹越汽船(株)設立(資本金1万3,000円、舞鶴・小浜・敦賀間を連絡)。 日出 5・27</p> <p>6・一 伏見醸友会設立。 伏見酒造組合誌</p> <p>7・1 京都瓦斯(株)、1カ月2円以上の消費者に対する1割引を1カ月66銭以上の消費者にまで適用。 日出 5・19</p> <p>7・一 竜紋氷室(株)と都製氷(株)が生産協定、氷価値上げ。 日出 7・18</p> <p>8・一 京都染物同業組合糸紐染部、染工賃2カ月勘定を1カ月勘定にすることを決定。 日出 8・16</p> <p>8・一 御大典記念大博覧会、起債不認可により中止。博覧会用に購入した敷地(下鴨村)は植物園として利用の予定となる。 日出 8・21</p> <p>8・一 生糸暴騰のため、帯地仲買滝川善八の9万円の破綻を契機に西陣機業家破綻続出。 日出 9・8</p> <p>8・一 宇治川電気(株)、資本金1,250万円、1千万馬力の電力をもって営業開始。 府誌下</p> <p>8・一 京都紙商組合設立。 同上</p>	<p>9・20 内国貯金銀行京都支店開業(烏丸綾小路下ル)。 日出 9・19</p> <p>9・一 糸価暴騰と製造安のため8月中旬から丹後3郡は約3割休機。 日出 9・26</p> <p>9・一 伏見桃山誠商組合設立。 府誌下</p> <p>10・1 京都電灯(株)、5燭55銭を45銭などに値下げ。 日出 7・15</p> <p>10・16 京都瓦斯(株)、伏見瓦斯(株)を6万2,500円で買収の仮契約。 日出 10・19</p> <p>10・20 大典設備費、水利水道事業費、伝染病院建築費の資金調達のための第2回京都市公債総額120万円認可。 日出 10・17、政経大年表</p> <p>10・一 宇治川電気(株)、大阪電灯(株)に送電開始。 宇治電之回顧</p> <p>10・一 南但銀行(株)、志賀銀行(株)と改称。 京都銀行20年史</p> <p>11・一 京都市第二勸業館竣工。京都市政要覧</p> <p>12・一 住江織物(株)、京都工場(今出川室町)を開設。 京都年鑑 昭39</p> <p>11・一 丹後機業は前年にひきつづき不振で、賃業の賃銭1日10銭内外でも競争、仕事のない者もある(以前は1日20銭～60銭)。 日出 11・28</p> <p>この年</p> <p>▷ 西陣機業家の破綻ふえる(大2・1～5月末間の破産申請数約40件のうち大半は西陣。9月初め西陣小機業家(資本1,000～2,000)の整理中のもの約40軒)。 日出 6・7、9・8</p>	

参	考	日	本																																																																																
<p>丹後織物の景況(与謝・中・竹野郡)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>機業戸数</th> <th>機台数</th> <th>従業員数</th> <th>生産価格 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1911(明44)</td> <td>2,018</td> <td>4,468</td> <td>15,646</td> <td>7,062</td> </tr> <tr> <td>1912(大1)</td> <td>1,678</td> <td>4,580</td> <td>15,794</td> <td>9,049</td> </tr> <tr> <td>1913(2)</td> <td>1,524</td> <td>4,123</td> <td>14,011</td> <td>8,738</td> </tr> <tr> <td>1914(3)</td> <td>1,275</td> <td>3,261</td> <td>10,617</td> <td>7,177</td> </tr> <tr> <td>1915(4)</td> <td>1,229</td> <td>3,790</td> <td>12,502</td> <td>9,512</td> </tr> <tr> <td>1916(5)</td> <td>1,261</td> <td>4,450</td> <td>14,332</td> <td>12,841</td> </tr> <tr> <td>1917(6)</td> <td>1,412</td> <td>4,632</td> <td>15,003</td> <td>19,058</td> </tr> <tr> <td>1918(7)</td> <td>1,520</td> <td>5,178</td> <td>16,175</td> <td>30,302</td> </tr> </tbody> </table> <p>丹後織物工業組合調べ</p> <p>西陣織物</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>生産価格 (千円)</th> <th>年次</th> <th>生産価格 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大1</td> <td>22,252</td> <td>大9</td> <td>84,405</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>21,489</td> <td>10</td> <td>83,098</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>19,452</td> <td>11</td> <td>64,177</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>20,676</td> <td>12</td> <td>61,386</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>30,727</td> <td>13</td> <td>67,167</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>34,257</td> <td>14</td> <td>63,353</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>50,474</td> <td>15</td> <td>62,216</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>77,896</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		年次	機業戸数	機台数	従業員数	生産価格 (千円)	1911(明44)	2,018	4,468	15,646	7,062	1912(大1)	1,678	4,580	15,794	9,049	1913(2)	1,524	4,123	14,011	8,738	1914(3)	1,275	3,261	10,617	7,177	1915(4)	1,229	3,790	12,502	9,512	1916(5)	1,261	4,450	14,332	12,841	1917(6)	1,412	4,632	15,003	19,058	1918(7)	1,520	5,178	16,175	30,302	年次	生産価格 (千円)	年次	生産価格 (千円)	大1	22,252	大9	84,405	2	21,489	10	83,098	3	19,452	11	64,177	4	20,676	12	61,386	5	30,727	13	67,167	6	34,257	14	63,353	7	50,474	15	62,216	8	77,896			<p>1・6 日銀、兌換券限外発行税率を6分に引上げ。</p> <p>4・1 明治記念拓殖博覧会を天王寺公園で開催(70日間)。</p> <p>4・30 鐘ヶ淵紡績(株)、朝日紡績(株)を吸収合併決定。</p> <p>5・2 主要輸入品の内地製造奨励のため所得税を免除すべき製造業者の指定勅令公布。</p> <p>6・10 森永製菓、ミルクキャラメル発売。</p> <p>8・18 西部瓦斯(株)設立(本社博多、資本金500万円。鹿児島・熊本・大牟田・佐世保・博多・八幡・小倉・門司・下関の9ガス会社の合併による)。</p> <p>この年</p> <p>▷ 綿織物工場数2,087、うち原動機使用工場数1,135(54.3%)。</p> <p>▷ 東北、北海道地方大凶作(青森・北海道では米穀収量平年の10～20%)。</p>
年次	機業戸数	機台数	従業員数	生産価格 (千円)																																																																															
1911(明44)	2,018	4,468	15,646	7,062																																																																															
1912(大1)	1,678	4,580	15,794	9,049																																																																															
1913(2)	1,524	4,123	14,011	8,738																																																																															
1914(3)	1,275	3,261	10,617	7,177																																																																															
1915(4)	1,229	3,790	12,502	9,512																																																																															
1916(5)	1,261	4,450	14,332	12,841																																																																															
1917(6)	1,412	4,632	15,003	19,058																																																																															
1918(7)	1,520	5,178	16,175	30,302																																																																															
年次	生産価格 (千円)	年次	生産価格 (千円)																																																																																
大1	22,252	大9	84,405																																																																																
2	21,489	10	83,098																																																																																
3	19,452	11	64,177																																																																																
4	20,676	12	61,386																																																																																
5	30,727	13	67,167																																																																																
6	34,257	14	63,353																																																																																
7	50,474	15	62,216																																																																																
8	77,896																																																																																		
<p>注1. 大5以降6カ年にわたり著しく増加したのは世界大戦による好況、とくに高級織物の売行き良好による。</p> <p>2. 大11以降減少したのは世界大戦景気の反動、とくに各種織物の急激な値下りによる。</p> <p>西陣織物同業組合沿革史</p>																																																																																			

京 都 府	参 考
<p>1・13 紀伊郡深草村の商工業者、相互の信用保持と発展のため深草商工会を設立。日出 12・26</p> <p>1・17 京都実業組合連合会は減税運動を決議、税制整理に関する調査委員を置く。日出 1・19</p> <p>2・1 福知山実業協会、営業税廃止運動開始決定。日出 2・4</p> <p>2・6 能勢儀兵ら、大典を機に京都案内協会設立を決定。日出 2・7</p> <p>2・10 京都食料品市場(株)設立(資本金5万円)。日出 2・12</p> <p>2・10 峰山実業青年団・福知山実業協会・伏見商業会議所・京都実業組合等、織物税・営業税廃止運動を開始、この日営業税全廃府下実業大会開催。日出 2・10</p> <p>2・一 営業税全廃運動激化。2・10府下25万の実業家が営業税全廃大会開催。日出 2・8</p> <p>2・一 京都府第2区塩小売組合(事務所伏見商業会議所内)はその事務を大阪専売局で元捌人に取扱わせることになり解散。日出 2・9</p> <p>3・18 京都の造醬油業で組織する醸造会発足。日出 3・20</p> <p>3・一 丹後機業界の生産は不活発で、操業機数3,500~3,600台、大2に比べ半数の休機。これに加え横浜市場の生糸相場は1,200円という高値(前年10月ごろから40~50円の暴騰)で原料高に苦しむ。日出 3・18、21</p> <p>3・一 山口銀行京都支店開設。京都金融史</p> <p>4・1 京都博覧協会は京都美術協会と共催で第43回博覧会として全国美術工芸品博覧会を開催。(出品人員1,657人、出品点数142,705点、総入場者約10万人。~5・31)。日出 4・1、6・2</p> <p>4・10 京都電灯(株)経営の越前軽便電気鉄道営業開始。日出 4・24</p> <p>4・一 &lt;三店問屋&gt;(上之店・錦之店・問屋町)および京都駅前鮮魚問屋で組織していた魚鳥商組合を、京都魚問屋組合と改称。府誌下</p> <p>4・一 森口(資)設立(資本金3,000円、金融業)。与謝郡現勢一斑 大5</p> <p>4・一 中郡に小西(資)設立(資本金3,000円、織物・同原料販売および金融)。中郡現勢一斑 大4</p> <p>5・18 機業家と賃業者間の調和を目的とした西陣織物賃業者組合設立。日出 5・18</p> <p>5・19 西陣貯蓄銀行、資本金を3万から10万円に増資、経営実権を東京貯蓄銀行に譲渡。日出 5・20</p> <p>5・29 京都電灯(株)、洛北水力電気(株)を32万3,320円で買収。日出 5・30、31</p>	<p>5・一 京都宿屋業組合連合会設立。京都商工要覽</p> <p>6・1 三十四銀行京都支店落成(工費9万円)。日出 6・5</p> <p>6・5 京都商業会議所新築竣工(烏丸夷川上ル、総工費130,293円)。京都商工会議所史</p> <p>6・一 京都農産物市場組合設立(烏丸東洞院下ル)。京都市中央市場誌</p> <p>6・一 東洋紡績(株)伏見工場創業。伏見町現勢一斑 大5</p> <p>7・1 西陣撫糸・再整撫糸等同業者18工場主は西陣不況のため操業短縮(個人工場3割・会社工場4割)を実施。日出 6・30</p> <p>7・15 京都自動車(株)、タクシー業を開始。料金は10町未滿60銭で、5町ないし停車10分毎に10銭を追加。朝日 7・17</p> <p>7・一 京都青物商組合設立(烏丸仏光寺東)。京都市中央市場誌</p> <p>7・一 大丸呉服店(株資)、京都店を分離し、本店を大阪に移す。京都店は大丸呉服店(資)として10・15独立開店。大丸250年史</p> <p>8・15 国鉄京都駅新築完成、営業開始。日出 8・14</p> <p>8・17 第一次世界大戦による輸入染原料暴騰のため、京都染物同業組合、染工賃を平均3割値上げ。日出 8・19、24</p> <p>8・一 大戦による生糸暴落と輸出途絶のため西陣機業界不況。西陣織物館記、日出 8・14</p> <p>8・一 京都貿易銀行、京都通商銀行と改称。紀伊郡誌</p> <p>8・一 北浜銀行事件に同行京都支店(室町六角・七条烏丸2店)は預金少なく波及せず。京都金融小史</p> <p>9・7 陶磁器業の発展と会員相互の親睦を目的とする京都陶磁器青年会発足。日出 9・8</p> <p>9・21 府・市・商業会議所三者連合による時局経済調査委員会(第1回)開催(委員長浜岡光哲、世界大戦のわが国および京都商工業界に与える影響を調査し対策を講じること目的)。<sup>(1)</sup> 浜岡光哲翁77年史</p> <p>9・29 大戦の影響をうけた輸出業者に対する救済資金500万円のうち府は6万500円をうける。日出 9・29</p> <p>10・一 奥田カタン糸製造場創業。伏見町現勢一斑 大5</p> <p>11・22 京都染物業界、染原料暴騰のため再び染工賃の値上げ決定。日出 11・23</p> <p>12・4 匿名組合負野薫玉堂解舒液部、負野工業製薬所(名)(大7第一工業製薬(株))に改組(出資金1万円)。第一工業製薬50年史</p> <p>12・17 京都染物同業組合所属の半衿染業者、染工賃の5割値上げを決議。日出 12・19</p>

参 考	日 本																																								
<p>(1) 時局経済調査委員会の調査資料(10・24~27、11・22、23)</p> <p>京都府・市・商業会議所は第一次世界大戦勃発による経済界の影響を調査したが、その内容(抜粋)は以下のとおり。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>機 械 類</th> <th>陶 磁 器</th> <th>輸 出 玩 具</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生産および販売額の増減</td> <td>増減なし独自の輸入品について国内品の需要増加見込み</td> <td>昨年の商況に比し4割の減。</td> <td>米国からの注文増とともに増。</td> </tr> <tr> <td>輸入の原料相場の高低と原料代用品の有無</td> <td>おおむね2~3割高、代用品少なし。</td> <td>石膏が2割高、その他は1~2割高。代用品の有無不明</td> <td>多少騰貴、原料は米・中を除き英のもの輸入が代用品あり</td> </tr> <tr> <td>新販路開拓の見込み</td> <td>理科学標本・蓄電池等は中国・露、電気器械は中国・満州等</td> <td>ドイツにかわって米・豪へ輸出増大見込み</td> <td>米 国</td> </tr> <tr> <td>職工の増減賃金の高低</td> <td>たいして変化せず</td> <td>解雇は2割、賃金は1~1.5割の切下げ。</td> <td>変化なし</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>木竹材・同製品</th> <th>染 物</th> <th>刺 しゅう</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生産および販売額の増減</td> <td>1~3割の減</td> <td>3割の減少</td> <td>輸出不振となる。</td> </tr> <tr> <td>輸入の原料相場の高低と原料代用品の有無</td> <td>竹色付葉品(ドイツ製)3割高、代用品あり。</td> <td>染料2~3培高、染料代用品なし</td> <td></td> </tr> <tr> <td>新販路開拓の見込み</td> <td>指物類は中国方面に見込みあり</td> <td>東洋方面</td> <td>見込みなししかし戦後の好況に望み</td> </tr> <tr> <td>職工の増減賃金の高低</td> <td>木具指物類の職工3割減。賃金は何れも1割減</td> <td></td> <td>内地向半襟または一時的職業に従事</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	機 械 類	陶 磁 器	輸 出 玩 具	生産および販売額の増減	増減なし独自の輸入品について国内品の需要増加見込み	昨年の商況に比し4割の減。	米国からの注文増とともに増。	輸入の原料相場の高低と原料代用品の有無	おおむね2~3割高、代用品少なし。	石膏が2割高、その他は1~2割高。代用品の有無不明	多少騰貴、原料は米・中を除き英のもの輸入が代用品あり	新販路開拓の見込み	理科学標本・蓄電池等は中国・露、電気器械は中国・満州等	ドイツにかわって米・豪へ輸出増大見込み	米 国	職工の増減賃金の高低	たいして変化せず	解雇は2割、賃金は1~1.5割の切下げ。	変化なし	区 分	木竹材・同製品	染 物	刺 しゅう	生産および販売額の増減	1~3割の減	3割の減少	輸出不振となる。	輸入の原料相場の高低と原料代用品の有無	竹色付葉品(ドイツ製)3割高、代用品あり。	染料2~3培高、染料代用品なし		新販路開拓の見込み	指物類は中国方面に見込みあり	東洋方面	見込みなししかし戦後の好況に望み	職工の増減賃金の高低	木具指物類の職工3割減。賃金は何れも1割減		内地向半襟または一時的職業に従事	<p>1・5 憲政擁護会、減税宣言発表、営業税・織物消費税・通行税廃止を決議。1・14全国3税廃止大会開催(廃減税運動全国にひろがる)。2・16衆議院、営業税全廃案否決。</p> <p>3・8 金物相場大暴落。京浜に破綻商店続出。</p> <p>6・1 大阪・東京・東洋・上毛モスリン会社、5割の操業短縮を開始(大14・5末まで実施)。</p> <p>6・26 東洋紡績(株)設立(大阪紡績(株)と三重紡績(株)の合併による。本社四日市、のち大阪、資本金1,425万円、社長山辺丈夫)。</p> <p>7・6 日銀、公定歩合を2厘引上げ、2銭とする。</p> <p>7・28 第一次大戦勃発。8・23日本ドイツに宣戦布告。</p> <p>8・1 糸価大暴落、横浜生糸市場休業。</p> <p>8・1 大日本紡績連合会、第7次操業短縮を開始(月4昼夜休業、1割休鍾、12・1以降は月4昼夜休業、2割休鍾。大4・8・1以降大5・1・31まで月4昼夜休業、1割休鍾)。</p> <p>8・3 第一次世界大戦勃発の影響をうけ、東京・大阪で株価暴落(12月まで低落傾向)。</p> <p>8・19 北浜銀行、日銀より救済融資追加300万円の要請を拒否され、臨時休業(いわゆる&lt;北浜銀行事件&gt;の発端。12・10開業)。</p> <p>9・14 生糸相場暴落、信州上一番格760円(100斤当り)となり、明33・10(同765円)を破る新安値。</p> <p>9・16 政府、戦時工業救済低利資金800万円の支出を決定(輸出関係小商工業者に対し、興銀・勸業を介して預金部資金を融通)。</p> <p>12・29 伊藤忠(名)設立(本社大阪、資本金200万円。個人経営伊藤糸店の業務を継承、大7株式会社に改組)。</p> <p>12・27 京都の藍染業者、この月は2割、来年1・1から5割の染工賃値上げ決定。日出 12・29</p> <p>12・一 両丹の大不況、生糸価暴落し製糸家の倒産に瀕する者多く、米価も安値で農民苦しむ。製織は販売不振で職工賃金下落。日出 12・26</p>
区 分	機 械 類	陶 磁 器	輸 出 玩 具																																						
生産および販売額の増減	増減なし独自の輸入品について国内品の需要増加見込み	昨年の商況に比し4割の減。	米国からの注文増とともに増。																																						
輸入の原料相場の高低と原料代用品の有無	おおむね2~3割高、代用品少なし。	石膏が2割高、その他は1~2割高。代用品の有無不明	多少騰貴、原料は米・中を除き英のもの輸入が代用品あり																																						
新販路開拓の見込み	理科学標本・蓄電池等は中国・露、電気器械は中国・満州等	ドイツにかわって米・豪へ輸出増大見込み	米 国																																						
職工の増減賃金の高低	たいして変化せず	解雇は2割、賃金は1~1.5割の切下げ。	変化なし																																						
区 分	木竹材・同製品	染 物	刺 しゅう																																						
生産および販売額の増減	1~3割の減	3割の減少	輸出不振となる。																																						
輸入の原料相場の高低と原料代用品の有無	竹色付葉品(ドイツ製)3割高、代用品あり。	染料2~3培高、染料代用品なし																																							
新販路開拓の見込み	指物類は中国方面に見込みあり	東洋方面	見込みなししかし戦後の好況に望み																																						
職工の増減賃金の高低	木具指物類の職工3割減。賃金は何れも1割減		内地向半襟または一時的職業に従事																																						

京	都	府
1・11 木綿黒染半衿更紗友禪等の各染物業者、総会を開催(～12日)し、染工賃値上げ実行決議。 日出 1・13		6・一 伏見竹商組合設立。 伏見町現勢一斑 大5
1・13 捺染業界の発展を期し、捺染商工会発足。 日出 1・14		6・一 名辻紡織所(名)設立(葛野郡、資本金30万円)。 府庁文書 大7-94
1・一 西陣織物同業組合、機関誌『西陣』創刊。 西陣織物館記		7・23 西陣新厚板地製織業者、織物の進歩発展を図るため西陣新織会設立。 日出 7・25
1・一 京都市の営業税雑種税改正案に京都宿屋業組合連合会、反対運動をおこす。日出 1・8		8・17 全国染料交換会、円山左阿弥で開催、染料不足改善の見込みがないため相場は市価と変わらず。 日出 8・19
1・一 三井銀行京都支店、四条烏丸に新築落成。 日出 1・23		9・1 サンチャゴで開催されたチリー博覧会に京都から27,000余円相当のもの出品。 日出 9・16
2・9 農商務省、貿易有望品の巡回陳列を京都商業会議所で開催(出品数973点、好評。～10日)。 日出 2・9		9・15 京都市内の米穀商業者、京都米穀同業組合創立総会開催(組合長鈴木常次郎、組合員693人)。 日出 9・16
2・一 吉水園、都ホテルに改組(初代社長片岡直温)。 京都市政要覧		9・29 愛宕郡の米穀商、府に産米検査(8・1から実施)反対の陳情。 日出 9・30
3・1 両丹電気(株)、峰山町民の要求で10燭1灯について65銭に値下げ。 日出 11・16		9・一 府の産米検査実施により南桑田・船井・何鹿・天田4郡の米穀同業組合解散。 日出 9・23
3・一 宝積金融(株)設立(資本金1万円)。 船井郡治概覧 大4		10・1 京都市主催大典記念博覧会、岡崎公園で開催(出品数4万5,912点、延べ入場者86万1千人、～12・19)。 京都市政史
4・1 戦捷記念博覧会、第1、2勸業館で開催(出品点数43,815点、延べ入場者18万4,026人、～5・31)。 京都博覧協会史略、日出 3・22		10・1 三菱銀行京都支店開設(四条烏丸南角)。 京都金融小史
4・2 京都染物同業組合所属糸総染部同業者、染料暴騰のため絹糸普通染300匁につき1円80銭等に値上げ、前年の2倍となる。 日出 4・4		10・5 西陣織物館(西陣織物同業組合陳列館)開館、西陣同業組合事務所竣工。 西陣織物館記
4・26 京都染物同業組合所属練物部および艶打部、原料騰貴のため2～3割値上げ決議。 日出 4・28		10・10 『日出新聞』、夕刊発行を開始。 日出 10・10
4・28 京都市内の燃糸業者、燃賃値上げを決議。 日出 4・30		10・26 京都書籍雑誌商組合設立。 日出 10・29
4・30 朝日製粉(株)(資本金50万円、うち払込み37万5,000円)、経営不振のため解散。 日出 5・15		10・一 東洋織布(資)設立(伏見、タイヤ用布製造)。 日出 大5・8・21
5・19 京都市内の織物業者、輸出織物の免税手続を取り扱う京都輸出商盛会を組織。 日出 5・21		11・一 負野工業製薬所(名)、玄武印マルセル石けん発売。 第一工業製薬50年史
5・一 京都の村井銀行倉庫部、独立して村井倉庫(資本金20万円、うち払込み10万円)を設立。 日出 5・21		11・一 四条通ガス灯に代え、電灯で全国初の近代街路照明を行なう。 財界半世紀
5・一 京神倉庫(株)設立。 京都年鑑 昭39		12・1 京都株式市場、市場暴騰のため委託証拠金引上げ。 日出 12・1
5・一 京都西洋家具商工組合設立(京都市内の西洋家具製造および販売業者45名から成る)。 京都市政要覧		12・一 京都煙管製造業組合設立。 京都商工要覧
5・一 京都竹製品組合設立。 府の商工業		この年 ▷ 嵐山電車軌道(株)は副業として京都電灯から50馬力の電力を購入し、輸入途絶の塩酸カリを製造。 日出 2・4
6・26 ロシアから観光団(28人)入浴。 日出 6・27		▷ 市中銀行間に競争激化。 <sup>(1)</sup>

参	考	日	本	
(1) 市中銀行預金比較例			3・20 帝国蚕糸(株)設立(売込間屋96万円、製糸家4万円を払込み、政府補助金500万円、社長原富太郎。6・15解散、大5・5末残務終了、大9再び設立)。	
本銀(京都商工)	大4・6末 6,468	大4・12末 7,276	比較 808	5・1 電気化学工業(株)設立(藤山常一の北海カーバイド製造所を継承。本社東京、資本金500万円、取締役会長馬越恭平)。
店行(京都)	2,718	3,591	873	6・21 染料医薬品製造奨励法公布(輸入杜絶対策)。
第一	5,921	5,782	-139	6・21 無尽業法公布。
三井	12,978	14,456	1,478	11・15 生糸相場一挙に36円高騰し、上一番1,035円となる。
三菱	未開店	2,056	2,056	11・23 生糸昇騰、1,150円台となる。
注	大5・12に第一銀行は、京都商工銀行を合併 京都金融小史			11・30 東京株式市場大暴騰、東株売買12・3まで立会い停止、いわゆる大戦景気の始まり。
				11・一 物価(大戦勃発以来低落ないし停滞気味)、上昇傾向に転ずる。
				この年 ▷ 貿易収支、出超に転ずる(内地出超額1億7,585万余円)。
				▷ 内田信也、船舶1隻で神戸内田汽船設立、たちまち戦争景気で社業拡大。大5、16隻を運行、株式配当60割を行ない話題となる。(このころから鉱山・貿易・船舶<成金>続出)。
				▷ 煙草吸口生産の現況 巻煙草用吸口(パイプ)の全国1年間の生産は約80億本で、京都はその半数以上を生産していたが、第一次世界大戦の勃発で輸出不振に陥り、昨年中の京都における生産総額は35億本以下で、職工の解雇・業務停止が続出。 日出 1・9
				▷ 西陣、本年は破産者をほとんど見ず 西陣織物業界は今年に入ってほとんど破産者を見ず、今年末の西陣機数は昨年末に比べ約3割増大し、6,000の賃織業者も多忙を極め好況。 日出 12・25
				▷ 京染本年の景況 第一次世界大戦以来、染料は大3・11になって、かつての10倍にもなり京染業者は値上げを決議した。しかし資力のある業者は染料騰貴を見越して早期に買い込み染賃値上げをしないで多くの注文を引きうけて他の零細な同業者を破綻におとしいれた。こうして業界では自然淘汰がかなり進行した。7～9月には染料相場は低下の兆しをみせ、染加工注文は思わくで減少したが、10月に入って染価が3割方引きもどし、先行き値上がりが見越されて注文が殺到、京染業者は多忙を極めた。
				染料値上(例)
	品名(百斤建)	戦前	時価(大3)	
	キノリンエロー	70円	350円	
	スカレットファシリング	83	380	
	アニリンサルト	37	145	
				日出 1・8、京都金融小史

京	都	府
1・10 京都染物同業組合各部工賃値上げ(染料の暴騰により染物部が総会を開き工賃の2倍値上げを決議、各部もこれに続く)。日出 1・11、18		8・26 京都商工銀行、第一銀行との合併を決議。日出 8・2、13、27、京都金融史
1・15 京都工芸品展覧会を岡崎公園で開催(入場者288,709人、売上高41,699円。~4・30)。日出 1・7、15、5・1		8・一 第二西成化学工業(名)設立(葛野郡、資本金1万円、薬品製造販売)。葛野郡現勢一斑 大5
1・26 京都貯蔵銀行、大正貯金銀行と合併、日本貯蔵銀行となる(本店京都市、資本金80万円)。政経大年表		8・一 負野工業製薬所(名)、七条千本に新築移転。第一工業製薬50年史
1・28 西陣織物同業組合、負担過重のため組合経営の染織試験場を市に寄付する申請書を提出(10・1から市管)。西陣織物同業組合沿革史		9・2 京都食料品市場(株)は経営困難のため株主総会で解散決定。日出 9・5
1・一 東洋製粉(株)設立(資本金50万円、社長平野俊男、京都製粉所(資)の工場を譲り受ける)。日出 1・13		9・12 コレラの流行により河水使用禁止となり、絹帛友禅業者は大打撃をうけたことを理由に問屋にたいし3割値上げを要求。日出 9・12
1・一 産業組合中央会京都支会与謝郡・北桑田郡部会設立。府産業組合史		9・一 京都府醤油業組合は醤油醸造試験所を開設。府醤油協組10年記念誌
2・一 豊富銀行(株)(天田郡上豊富村、明30・12・28設立)は、高木銀行(株)と改称(本店福知山町に移転、資本金100万円に増資)さらに3月高木銀行(個人経営・福知山町)を合併。京都銀行20年史		9・一 産業組合中央会京都支会加佐郡部会設立。府産業組合史
2・一 美術貿易中山(名)設立。京都貿易史		9・一 嵯峨木綿(名)設立(資本金2,500円、木綿製造)。葛野郡勢一斑 大5
2・一 京都米穀商同業組合設立(三条千本西)。京都市学区大観		10・1 京都市立染織試験場開場。京都市染織試験場沿革誌
2・一 西陣の博多九寸好況。日出 2・3		10・一 京都曹達製造所設立(伏見町新町12丁目、工場主羽室亀太郎、過酸化ソーダ製造)。伏見町現勢一斑 大5
3・15 京都名産品陳列協会結成、京都駅前に陳列館を設置。日出 3・17		11・16 東洋ラミー織布(株)設立(洛北松ヶ崎、資本金100万円)。日出 5・17、19
3・一 西陣賃業者および職工の争奪激甚。日出 3・6		11・一 峰山に生糸の現物相場取引所開業。日出 11・26
3・一 産業組合中央会京都支会南桑田郡部会設立。府産業組合史		11・一 竹野郡網野町商工会設立。府の商工業
4・一 撚糸界ようやく閑散気配(前年末以来の稀に見る盛況から2月を頂点として退潮)。日出 4・24		12・4 ワクチン製造所(京都市岡崎町)を認可(医師田中秀三により新設)。朝日 12・6
5・5 銭屋商会(株)設立(資本金20万円、うち払込み5万円、旧銭屋商会西川吉兵衛の個人営業を継承、貨物装飾および一般信託業)。日出 5・7		12・19 第一銀行、京都商工銀行を吸収合併(京都の最有力本店銀行消滅)。京都金融小史
5・25 京都信託(株)設立(本社三条繩手東、資本金50万円)。日出 3・25、5・27		この年
5・一 モスリン友禅業者、染料・モスリンの暴騰で注文途絶し苦境に陥る。日出 5・25		▷ 丹後機業大活況を呈す。 <sup>(1)</sup> 日出 3・9
6・一 無尽業法の実施による府下9会社申請のうち、大正無尽(株)・内国無尽興業(資)、日本共立無尽(株)(本社大阪)、実業無尽(株)認可。日出 6・29		▷ 新会社設立増加。 <sup>(2)</sup>
7・一 京都府醤油問屋組合設立。府醤油協組10年記念誌		

参	考	日	本						
(1) 丹後縮緬業に対する戦乱の影響 大3後半期から大4の初期にかけては、平年に比べ2割減となったが、同4・4ごろから未曾有の好況となり、3割内外の増機を見、丹後縮緬有史以来の生産額(平年に比べ約4割増)をあげた。日出 3・19			1・一 織物界大好況(過去数年來不振の織物業も前年夏以来一般財界の好況により好転し、昨今は生糸・米高により織物の売行き急増)。						
(2) 産業別会社数、資本金			2・25 日本染料製造(株)設立(本社東京、資本金800万円、株式応募857倍に達する。昭19住友化学工業(株)へ合併)。						
年次	総数	農水産業	林業	工業	商業	金融業	融和業	水陸運輸業	資本金(百万円)
明44	376	11	108	184	47	26	49		
大1	398	7	101	225	45	20	64		
2	424	8	113	239	44	20	74		
3	395	6	100	218	42	29	65		
4	442	8	134	230	42	29	65		
5	539	2	179	315	43		78		
6	596	16	218	320	42		118		
7	708	19	231	413	45		187		
8	888	25	267	551	45		167		
9	912	17	318	535	42		235		
府統計書(支店等は含まない)									
(3) 府下工場の現況									
工場法の適用工場総数は705、うち寄宿舎の設備あるもの501・設備のないもの179・未定25、業種別には染織工場292(うち寄宿舎の設備あるもの61)と最も高く、器械器具製造36(うち同18)等がこれに続く。職工総数は29,5321人、うち男が13,523人で女工の方が多く、寄宿者は女子が男子の2.4倍。日出 大6・2・10									
									11・6 株界波瀾のため各地株式市場証掘金引上げ、京都もこの日から実施。
									12・15 日銀、金融界の安定をはかるため、進んで低率の貸出しを行なう旨発表。
									12・31 兌換券発行高未曾有の膨脹(6億1,000万円)。
									この年
									▷ 翌年にかけて汽船会社の設立多数(うち資本金100万円以上の会社は山下汽船・東和汽船など12社)。
									▷ 貿易収支大幅な黒字となる(内地出超額3億7,104万余円)。

京 都 府	
1・7 京都染物 同業組合 工賃値上げを決議 (紫諸色染部5割、紅染部は8日同様値上げ決議。湯のし部は9日、モスリン友禪部は10日値上げ総会開催)。 日出 1・9	製造工場を三条千本東入ルに建設、市内における製油業の初め。 日出 6・15
1・14 都製氷(株)、東洋製氷(株)に合併決定。 日出 1・25	6・一 京都市立染織試験場、精巧なりボン製織を案出。 日出 6・7
1・17 京都実業組合連合会結成(加盟組合115)。 京都商工会議所史、日出 1・16	7・4 京都酒商同業組合、米価高騰を理由に清酒値上げ決定。 日出 7・6
1・17 日本電池(株)設立(新町今出川、島津製作所蓄電池工場から独立、資本金350万円、資本金は島津・大倉・三菱で均等負担、社長をおかず専務に島津源蔵就任)。京都貿易史、日出 1・19	7・10 網野商品取引所(株)設立総会開催(竹野郡網野町、資本金10万円、発起人室井光蔵ら、縮緬原料等売買)。 日出 7・12
1・26 京都カタン糸同業組合設立認可。 日出 1・27、4・11	7・11 丹後縮緬竹野郡同業組合、仲介業者を組合員とするため定数改正を行ない知事の認可を受ける。 日出 7・12
1・一 東洋カタン糸(名)設立(葛野郡朱雀野村、資本金1万円、光沢系製造)。 葛野郡現勢一斑 大6	7・11 氷値上げ(製造価格1貫目6銭、卸10銭、小売15銭)。 日出 7・13
2・1 府、農務・商工・林務の3課を合併して勤業課に統一。 日出 2・2	7・20 京都貿易協会創立総会開催(幹事長錦光山宗兵衛、大7・4・7会長制)。 京都貿易史
2・一 京都土地金融(株)創立発起人会開催(発起人田中秀三ら、資本金10万円)。日出 2・27	7・21 灰汁浸業者、紫諸色染業者はそれぞれ酢・染料騰貴を理由に3割の値上げを決議、また22日湯のし業者も木炭騰貴を理由に同様の決議。 日出 7・24
3・5 丹後縮緬与謝・中・竹野三郡組合は商取引利子の引下げ等問屋に要求を決定。 日出 3・6	8・1 京阪電車、諸物価高騰により3割値上げ。 日出 7・29
3・12 京人形内外玩具同業組合解散を決議(4・16解散、組合法の改正による解散組合としては府下で最初)。 日出 3・14	9・1 京都金粉(株)創立総会開催(本社御幸町御池南入、資本金30万円、社長阿部億次郎)。 日出 9・13
3・28 丹後織物(株)、創立総会を峰山町一丁目で開催(資本金50万円、取締役吉村伊助ら)。 日出 4・1	9・1 島津製作所(株)設立(改組、資本金200万円、社長島津源蔵)。 島津製作所史
3・一 日本研磨砥石(株)設立(伏見深草中ノ島町)。 京都市学区大観	9・1 村田製鋸所(株)設立(改組、本社東洞院松原下ル。資本金100万円、専務取締役村田善助)。 山科町誌
4・8 日新電機(株)設立(本社右京区梅津高畝町、個人経営の日新工業社を継承、資本金50万円)。 京都貿易史	9・10 両丹電気(株)(本社宮津町、資本金26万2,500円)は豊岡電気(株)(本社豊岡町、資本金30万円)と合併、東洋電気(株)(資本金100万円)と改称。 日出 8・7
4・一 帝国電化(資)設立(本社葛野郡朱雀野村、資本金7万5,000円、工業薬品製造販売)。 葛野郡現勢一斑 大6	9・20 日本機械精工(株)設立総会開催(武田商店(新町二条北)が改組、資本金50万円、染色機械・織機・紡織・整理機等製作販売)。 日出 9・21
5・3 福知山製糸(株)創立総会開催(資本金50万円、社長波多野鶴吉)。 日出 5・5	9・一 京都織物界不況となる(西陣・丹後とも一般市場の不況を反映)。 日出 9・14、10・12
5・12 京都商業会議所、常設調査委員会を設置(第1部商業、第2部工業、第3部理財・交通)。 京都商工会議所史、日出 5・13	9・一 山科精工所創業。 京都年鑑 昭44
5・一 京都土地興業(株)設立(代表取締役横田永之助)。 京都市学区大観	9・一 京都窯業(資)設立(葛野郡松尾村、出資金5,000円、煉瓦製造販売)。 葛野郡現勢一斑 大6
5・一 亀岡銀行、京都支店(三条千本)開設。 田中原太郎翁伝	10・5 丹後縮緬、10・20から11月中旬まで休機決定。 日出 10・5、20
5・一 武田化学研究所(葛野郡梅津村)、染料メタニールイエローを発明。 日出 5・14	10・16 奥村電機(株)創立総会開催(改組、資本金500万円)。 日出 10・17
6・9 製油工場操業(日向伝吉、米ぬか油の	10・一 福知山北丹電気(株)、山陰合同電気(株)と改称(資本金62万5,000円)。 日出 10・31
	10・一 日本輸出織物(株)設立(東九条町、資本金25万円、ポプリンの製造輸出)。 日出 12・12

参 考		日 本	
第一次大戦後勃興した工場調査 工場数および投資額(大6・9末)			
工場種別	新設工場		増設工場 工場数
	工場数	投資額	
		千円	千円
合 計	162	520	3,577
染 織 工 場	96	252	1,330
機 械 器 具 工 場	21	120	537
化 学 工 場	16	74	1,094
飲 食 物 工 場	5	12	28
雑 工 場	22	62	228
特 別 工 場 (金属精練)	2	0	360
注 1 職工10人以上使用の工場 2 なお増設工場の投資額は、大3末9,166千円、大6・9末13,928千円 3 新設工場職工数は、大3末の1,297人から大6・9には4,589人に増加 4 職工の出身地は京都13,045、石川1,814人、滋賀970人、兵庫1,461人、福井県825人 府警察部工場課調べ			
10・一 丹後縮緬各郡同業組合は京都の縮緬商に対し、難引(不景気難代価引下げ)等の商取引悪習矯正の交渉を決定。 日出 10・15、18、26		1・一 三越呉服店新築(この年からデパートメントストアー勃興、大8白木屋・松屋、大9大丸設立)。	
11・一 西陣織物機業不振により、諸賃業者に対し手間賃の2割減を発表。 日出 11・22		2・23 英国、軍需品・食糧品の輸入確保のため輸入禁止品目を決定(このためわが国は絹織物・綿レース・綿メリヤス等で大きな打撃をうける)。	
12・2 西陣織物同業組合、絹織物増税反対を表明(政府の綿織物減税額を絹織物に加税する内示が契機)。 日出 12・8		3・12 福井製絹組合、英国の絹織物輸入禁止対策に4月以降3カ月間の操業短縮を決定。	
12・25 松風工業(株)創立総会開催(松風陶器(資)を改組、資本金200万円、社長松風嘉定) 松風嘉定		3・16 日銀、公定歩合を2厘引下げ、1銭4厘とする。	
12・一 吉忠(株)設立(中京区室町四条北、代表吉田茂八、各種広巾婦人服地製造問屋)。 京都貿易史		4・13 日本捺染協会創立(機械捺染業者の融和親睦をはかる目的で京都中村楼で発会式を開催。発起人総代明石厚明、本部事務所を京都におく)。	
12・一 伏見商業会議所解散(建物敷地は町に寄付し伏見商工集会所に転用)。 伏見町誌		5・一 農商務省、わが国染料製造業の発達により人造染料の輸出を許可。	
この年 ▷ いわゆる大戦景気で工場新設あいつぐ。 <sup>(1)</sup> ▷ 染料騰貴やまず、染物業界は染工賃値上げ。 日出 7・24、8・14、9・6		5・一 大阪タクシー自動車(株)設立。	
▷ 西陣にモール製造盛ん。(マニラ麻モールは、大5・5 神戸東北商会の久慈喜一郎が意匠・新案登録をうけたのに始まり、欧米婦人の帽子製造に用いられ、米・仏等へ輸出。西陣職工のモールに転職するもの多い)。 日出 7・31		6・26 米価騰貴、東京市場23円69銭出現。	
		7・21 産業組合法改正され市街地信用組合制度創設(一般信用組合に家族・公共団体・非営利法人等の預金の受入れならびに消費金融を認める。11・1施行)。	
		8・30 暴利取締りのため物価調節令公布。	
		10・6 三菱造船(株)設立。	
		12・12 絹織物増税反対織物業者大会開催(2分増税に対し各絹織物機業地では反対の氣勢を示し、関東織物同業組合協和会大会(東京)で増税反対。西陣からも出席、13日各政党本部に陳情)。	

京 都 府	参 考
<p>1・5 峰山町商峰社丹後縮緬買次商組合役員会は、各店まちまちであった買次手数料を2分とし、案内日現金取引と決定。 日出 1・10</p> <p>2・1 西陣隆織会は本燃糸業者の賃金値下げ要求に対し、値上げ態度を決定。燃糸職工は3割の賃上げ、本燃糸業者は大体1割の賃上げを獲得。 日出 1・24、25、28、2・3、6、15、25</p> <p>2・20 銃鉄鋳物・真鍮鋳物の業者(京都市内・伏見町・滋賀県の一部)、京都鋳造組合を設立(会員28名、組長杉本真太郎)。 日出 2・20</p> <p>2・23 波多野鶴吉没(安政15年生、61歳、郡是製糸(株)社長)。 郡是製糸60年史</p> <p>3・13 高級地帯の製織家団体である美装会・錦綾会・大正会・糸文会の会員140余名は、職工争奪禁止の誓約書を作成。 日出 3・14</p> <p>3・20 京都染物同業組合中の絹帛友禪染は4・1から3割値上げを発表、同組合張物部も3割の工賃値上げを発表、同帯地再整部も総会の決定により3割5分方の工賃値上げを発表。 日出 3・20</p> <p>3・23 東亜蚕糸(株)設立(本社今出川智恵光院西入、資本金100万円、綾部町蚕糸業者を中心とし、全国の蚕糸業者10余人発起)。 日出 3・28</p> <p>3・一 織物界流行の標本紹介を目的とする日本染織物流行社開業(室町竹屋町下ル西側、代表者西川幸兵衛、中京の呉服問屋の後援)。 日出 3・11</p> <p>4・1 京都市周辺町村大合併。 府市町村合併史</p> <p>4・1 京都博覧協会、第46回京都博覧会を勧業館で開催(出品人員2,550人、出品点数82,000点、入場者169,000人、通し券10銭。~5・31)。 京都博覧協会史略</p> <p>4・24 木内知事、物価需給の関係調節について各郡市長に訓令。 日出 4・24</p> <p>4・一 高山耕山陶器(名)(大5・5創立)、高山耕山化学陶器(株)に改組。(昭24三光陶器(株)と改称、同26解散)。 京焼百年の歩み</p> <p>4・一 京都電灯(株)、嵐山電気軌道(株)を合併し朱雀野火力・清滝川火力発電所を引継ぐ。 京都電灯50年史</p> <p>4・一 二井商会(株)設立(のちの日本コンデンサ工業)。 京都貿易史</p> <p>4・一 日之出商会(京都瓦斯(株)で製出するコークスの元売捌所)・安田和三郎商店、共同出資し、日本燃料(株)を設立(事務所七条間之町東入ル、資本金10万円、社長安田和三郎)。 日出 4・26</p>	<p>5・9 丹後縮緬三郡同業組合が製品の改良・精練のため国練場設置を計画したのに対して、京都市内関係業者は反対の陳情書を京都商業会議所へ提出。 日出 5・28</p> <p>5・25 京都燃糸業組合、燃糸工員2~3割の賃上げ決定。 日出 5・27</p> <p>6・1 京都染物同業組合引染部、染価の最低標準引上げ実施。 日出 5・27</p> <p>6・15 茶業小売商人等、山城の茶5割方値上げを決議。 日出 6・16</p> <p>6・25 京都染物同業組合灰汁附部、2割方賃上げを実行。 日出 6・8</p> <p>7・1 京美会(株)設立(資本金10万円、株主数24人、社長池田有蔵、仲買人を排除した帯地製品の依託販売を目的)。 日出 7・1</p> <p>7・3 藤田銀行京都支店営業開始(この前後銀行間の預金獲得競争激化)。 日出 7・14、京都金融小史</p> <p>7・13 府、京都米穀商組合に対し、組合定款を改正して標準価格の規定を削除するよう要請。 日出 7・14</p> <p>7・31 郡是製糸(株)、蚕糸・福知山・舞鶴の3製糸会社を吸収合併。 郡是製糸60年史</p> <p>8・10 京都で米騒動。<sup>(1)</sup></p> <p>8・11 京都市、米騒動対策として上京・下京各10カ所に外米販売所を設け、切符制度により販売。 日出 7・8</p> <p>8・25 第一工業製菓(株)創立(9・1開業。負野工業製菓所を引継)。 第一工業製菓50年史</p> <p>8・27 貴金属商工同盟会設立(市内の装身具用金属製品業者200余名が会員、会長家徳徳之助)。 日出 9・14</p> <p>8・一 京都カタン糸同業組合、海外への声価発揚のため、府の賛助を得てカタン糸製造販売同盟会を組織し、規約を作成。 日出 8・22</p> <p>9・6 京都染物同業組合縮緬練部総会で工賃3割値上げを決定。 日出 9・8</p> <p>9・25 物資配給、市価牽制を目的とする京都市公設市場を、北野・川端・七条の3カ所に急造バラックで開設。 京都市公設市場の躍進40年</p> <p>9・一 私設の出町市場(河原町今出川上ル)が店舗数23店で開設、その後続々私設市場開設(大7~大11・12に開設された日用食料品小売市場は公設10カ所、私設26カ所)。 市場の沿革</p> <p>10・1 京都市内の湯屋同業組合、湯銭値上げ実施。 日出 10・2</p> <p>10・15 京都染物同業組合御召再整部、この日から工賃3割値上げ実施を決定。 日出 10・20</p>

参 考	日 本
<p>(1) 京都では8月に入り白米1升50銭に高騰、生活難の声高まる。10日夜下京に暴動勃発、11日夜は市内数カ所におこり、付近の米穀商店倉庫を襲撃。市内は軍隊が警戒にあたり、他地方の惨劇はなかった。内帑金300万円のうち京都府には8万円を下付、市内篤志家の寄付645,594円をえて米価割引券を配付し中産以下を救済、極貧者には施米券をだす。市内数カ所に外米廉価市場を開設。府の外米取扱高77,525袋(51,430石)、台湾米1,226袋に上る。 府統計書 大7</p> <p>(2) ① 西陣賃織業者の争奪さかん 西陣一帯の機業状況は非常な活況で、とくに製織期間を3月中旬で切り上げる夏向きお召し、春向き9寸帯地は繁忙をきわめ、織工賃金は2~3割方値上げされたが、賃織業者の争奪戦がさかんになり、雇主は対策に腐心。 日出 2・25</p> <p>② 丹後機業盛況 輸出織物・夏物当用品・精良織物等の各製織家は職工給料高や米価高騰には頓着せず相当の利潤を獲得し、職工で1カ月賄付50円内外の給料を受けられるものも多数という商況。 日出 4・21</p> <p>③ 西陣の生産は職工不足で2割減 西陣では職工不足のため、生産額は価格騰貴にかかわらず昨年に比べ2割方の減少。目下西陣の職工は男6,650人・女8,233人・賃業者8,717人。 日出 6・11</p> <p>④ 染色職工争奪 職工不足は各事業界共通であるが、染色業界はとくに甚しく工賃は本年に入りすでに3割5分の増額となり、他方悪徳周旋業者の職工引抜きで染色業者は困憊。 日出 8・7</p> <p>10・15 京都醤油組合は1割値上げ実行。 日出 10・15</p> <p>11・1 嵐電、乗客賃金2割5分方の値上げ実行。 日出 11・1</p> <p>11・1 京都市公設3市場で木炭販売開始、売行きすこぶる良好。 日出 11・3</p> <p>12・13 西村貿易店、貿易部を組織変更して資本金100万円の株式会社となる(会長西村総左衛門、社長西村総太郎)。 日出 大8・1・16</p> <p>12・16 各地銀行界では預金争奪の悪弊矯正のため預金利子引上げを協定、京都は16日から実施。 日出 12・14、伏見信用金庫60年史</p> <p>12・27 飯野商事(株)設立(飯野商会の事業一切を継承、本社加佐郡余部町、資本金100万円、取締役社長飯野寅吉)。 飯野60年の歩み</p> <p>12・一 村井貿易(株)設立(資本金200万円、社長村井吉兵衛)。 日出 12・24</p> <p>この年 ▷ 前半職工の争奪さかん。<sup>(2)</sup></p>	<p>1・1 大日本紡績連合会、第8次操業短縮を実施(1割休鍾、半年間の予定で開始し、12・31まで継続)。</p> <p>1・23 全国絹織物増税反対同盟は織物消費税の増徴に反対決議。</p> <p>4・15 大阪市初の公設市場を各町・境町・天王寺に開設。</p> <p>7・16 鉄道院、旅客運賃の引上げ実施(8・1定期乗車券・回数乗車券値上げ、9・1貨物運賃値上げ)。</p> <p>7・31 米価大暴騰、期米市場大混乱、各地取引所7日まで立会い停止。</p> <p>8・3 富山県一漁村の女房連が集団的に米の廉売要求運動をおこす。これを発端として全国に米騒動勃発(8・10、名古屋・京都両市に波及)。</p> <p>9・16 日銀、公定歩合を2厘引上げ、1銭6厘とする。</p> <p>10・21 大正海上火災保険(株)設立(本社東京、資本金500万円、会長飯田義一)。</p> <p>11・11 第一次世界大戦おわる。</p> <p>11・25 日銀、利子2厘方引上げ(22日発表)。</p> <p>11・一 休戦の影響により、小造船所の閉鎖続出(大阪で11月中に10カ所、東京でも12月中に数カ所)。</p> <p>この年 ▷ 11月後半以降、休戦による反動不況。 ▷ 会社の開設・増資きわめて盛ん(事業計画資本金額26億円)。 ▷ 貿易収支大幅な黒字となる(内地出超額2億9,395万円、大4以来4年間の出超額累計約14億円、この他に貿易外の受取超過額累計約10億円)。</p>

京 都 府	
1・15 竹野郡製糸(株)設立 (資本金30万円、株主数1,038人、社長河田源七)。 日出 1・21	8・18 日本クロス工業(株)設立 (一条油小路西入ル、資本金 100 万円、代表者坂部三次、製本用クロストレーシングクロス等を製造、昭3・4本社を西京極に移転)。 京都貿易史
2・10 丹後縮緬は原糸暴落の影響で下押し相場が続く、採算がとれないため休機。朝日 2・10	8・20 高島屋呉服店(株)設立 (高島屋 飯田(名)を継承、本店下京区烏丸高辻下ル因幡堂町、資本金 300万円 (うち払込み済み 150万円)、取締役社長飯田政之助)。 高島屋135年史
2・27 京都商業会議所は節米の撤文 2 万枚を市内各官公署・学校・銀行・会社・団体等に配布。朝日 2・27	8・25 旭人造絹糸(株)設立 (資本金100万円、人造絹糸およびその原料・化学製品等の製造・染色・製織販売)。 日出 8・26
2・一 両丹自動車(株)設立 (福知山、大9・3・1開業)。 天田郡志、日出 大9・3・2	8・一 志賀銀行(株)、何鹿銀行(株)と改称。 京都銀行20年史
3・20 明37からの織物消費税徴収に対し西陣をはじめ全国の織物組合が下付金を要求して猛烈に運動、この日消費税の1/1000の下付を議会で可決。交付金は年額 14,000 円の見込み (煙草耕作組合に対する交付金も決定)。 日出 3・30	9・11 西陣織友会発会式挙行 (西陣の悪慣習を打破し、賃業者職工徒弟の自覚を促し、機業家と協力して技術の進歩を図ると同時に西陣を改善する目的、代表者辻井民之助)。 日出 9・6
4・4 陶磁器試験所官制公布、さしあたり事務を京都市立陶磁器試験場内で取り扱う。勅令83号、農商務省告示74号	9・23 日本新薬(株)設立 (京都新薬堂の営業権利一切を継承、資本金50万円)。 日出 9・24
4・6 大沢商会(株)設立 (個人経営の大沢商会を継承、本店下京区三条河原町、資本金 300 万円、社長大沢徳太郎、時計・自転車・欧米雑貨の輸入販売)。 大沢徳太郎、日出 4・7	9・26 京都理髪業組合、職人徒弟の就業時間を13時間に決定。 日出 9・28
4・25 西陣織物(株)設立 (資本金 200 万円、事務取締役西村孫兵衛)。 日出 4・26	10・25 京都府工業会連合会設立 (労働問題解決の一助とすべく府が奨励)。 日出 10・21、31
4・一 京都手形交換所に現われる不渡手形が、この月に入り激増 2 万余円に達する。日出 4・22	10・27 京都織物(株)、臨時株主総会で、250万円から500万円に増資決定。 日出 10・14
5・10 中京における有力織物仲買問屋が計画した京都織物販売(株)設立 (資本金200万円)。 日出 5・12	10・一 新京極商店界、店員に月 1 回の公休日設定を決める。 日出 10・30
5・13 寿製作所(株)設立 (資本金200万円、力織機を製造)。 日出 5・17	11・22 竜紋氷室 (京都最初の製氷業者)、株式会社を改組 (資本金500万円)。 日出 11・30
6・12 飯田貿易店・高田商店・西村貿易店その他20余名が京都輸出絹業会を組織。日出 6・14	11・23 舞鶴電気(株)設立 (資本金270万円)。 日出 11・26
6・24 物価騰貴に伴い官公吏の生活困難から、知事の主唱で産業組合法による府庁購買組合設立を決め、各課長会議で具体化を計画。日出 6・25	11・24 公設市場 (新町頭妙覚寺境内) 開業、指定商人18人。 日出 11・25
6・一 七十四銀行(横浜)京都支店開設 (三条高倉)。 京都金融小史	11・一 福知山実業協会、店員の公休日を年 6 回とし、それ以上は各商工業者の任意とする。 日出 11・28
7・1 日向林産(株)設立 (日向木炭の販売を目的とし、資本金25万円)。 日出 7・5	12・18 壬生公設市場開業。 日出 12・11
7・15 平和織物(株)設立 (京都の西川幸兵衛・竹上藤次郎ら発起、福井市の大正組の毛朱子製織所を買収して工場とし、資本金50万円・株主32人、主として支那方面向きの朱子・ポプリン・富士絹などの製織販売)。 日出 7・4、16	12・20 伏見公設市場 (伏見町板橋第一尋常小学校内) 開業、指定商人25人。 日出 12・13
7・一 西陣織物業界、織物課税標準 5 割引上げに反対。 <sup>(1)</sup> 日出 6・26	12・25 正面公設市場開場。 <sup>(2)</sup> 日出 12・25
7・一 西陣織物同業組合、賃織業者の契約違反に過怠金を科す。 日出 7・23、24、29	この年 ▷ 京都市内および府下各警察管内単位に工業会設立。 <sup>(3)</sup> 日出 4・27 ▷ 諸財の小売価格・製品価格 1 ~ 3 割引上げ賃金・俸給も大巾に上昇。 日出 ▷ 織物商業 (株) 設立 (室町帯地問屋中村・清水・矢代・市田・津田・千治の 6 社による)。

参 考	日 本
(1) 6・25上京税務署長、西陣織物同業組合に7・25から全国一律実施を通告、7月地元の博織会・美奨会・金曜会・隆織会・交織会等20余団体が反対に立上り、関東同和会 (30余組合加入) も反対、8・2高橋大蔵大臣は各機業地代表と懇談、実施を9・1に延期し、実態調査に着手、農商務省は大5・11以降の価格高騰率 5 割以内の織物を調査したが、西陣には該当なし。 日出 6・26~7・24	1・一 貿易収支入超に転ずる (5年ぶり)。 5・一 米価騰勢顕著 (大9はじめまで上昇傾向続く)。 5・一 物価 (日銀調べ東京卸売物価指数)、上昇に転ずる。 6・28 東京俸給生活者同盟会 (サラリーマンユニオン) 発会式。 6・一 企業の新規事業計画資本高、増加傾向に転ずる (企業ブームは8、9月から激しくなり、大9・3まで続く)。 8・15 三菱合資会社銀行部独立、三菱銀行(株)設立 (10・1開業)。 9・1 織物課税標準価格 5 割方引上げ実施。 8・一 株式市場、商品市場の投機ブーム激化。 10・6 日銀、投機抑圧のため公定歩合を 2 厘引上げ、2 銭とする。 11・19 日銀、公定歩合を 2 厘引上げ、2 銭 2 厘とし、明38・6 以来の最高となる。
(2) 公設小売市場(昭2・12現在)	この年 ▷ この春から大9・3まで戦後ブーム。 ▷ 銀行の増資盛ん (横浜正金・日本興業・台湾・三井・三菱・第一・浪速・第三などの諸銀行)。
市場名 所在地 建設年月日	
七 条 七条新町下ル	大7・9
北 野 中立売七本松	同
川 端 聖護院河原町	同
新町頭 鞍馬口新町頭	大8・11
壬 生 壬生坊城町	大8・12
正 面 正面川端東	同
丹波橋 伏見丹波橋	大13・4
八 条 九条寺ノ前町	昭2・3
京都市公設市場の躍進40年	
(3) 久世工業会会則によれば、(会員)従業者 5 人以上を使用する各種工業主、(目的)工業の発達を期し工業主相互並に工業主と従業者との各融和及従業者の救済保護教化を図る、(会費) 1 等、従業者100人以上を使用する者 1 カ月10円とある。	

京 都 府	府
<p>1・1 京都物産館(名)設立(本社下京区烏丸塩小路、資本金1万円、代表者中林太一郎。大15・10物産館(名)と改称、昭6・10丸物(名)と改称、昭9・9株式会社に改組)。京都商工名鑑</p> <p>1・1 京都市立陶磁器試験場付属伝習所、試験場の国への移管に伴い京都市立陶磁器伝習所となる。市告示21号</p> <p>1・15 京都市立陶磁器試験場、国に移管され廃止。大8市告示513号</p> <p>1・15 宮津鉄工所設立(資本金20万円)。日出 1・18</p> <p>1・下 京都撚糸組合、賃金5割値上実施(大8・9以来約10割の引上げ)。日出 1・20</p> <p>2・5 京都刺繍貿易商売会設立。日出 2・7</p> <p>2・6 林屋製茶(名)(宇治郡宇治村木幡)の主唱で、茶エキス(株)設立。日出 2・8</p> <p>2・一 西陣織物同業組合は織機奨励規則をきめ、力織機および準備工程の機械化を資金的に援助(昭3・9・1廃止)。西陣織物同業組合沿革史</p> <p>3・20 京都博覧協会創立50年記念・京都美術協会創立30年記念の全国勸業博覧会を第一・第二勸業館・商品陳列所において開催(入場者33万2,000人。~5・20)。日出 3・22</p> <p>3・一 京都自動車工業(株)設立(八幡製作所(市内東山二条角)を買収、資本金10万円で組織、自動車・修繕事業、社長立入宗興)。日出 3・3</p> <p>3・一 三丹電気(株)、舞鶴電気(株)を合併。与謝郡誌</p> <p>4・上 西陣、操業短縮を決議(絹織物の暴落に対処)。日出 4・2</p> <p>4・11 西陣縹子帯地団体共栄組、15日から全休に決定、他の帯地団体も休機を決定。政経大年表、日出 4・11</p> <p>4・20 京都撚糸業組合、5・1から一せい休業を発表(休業中の職工賃金は現給の半額支給を申合せ)。日出 4・21</p> <p>4・20 友禅業者は20日、モスリン業者は21日に、職工の賃金切下げを決定。日出 4・23</p> <p>4・20 丹後産業銀行(株)設立(宮津町、資本金100万円、昭16両丹・宮津・丹後商工銀行と合併、丹和銀行(株)となる)。京都銀行20年史、日出 2・4</p> <p>4・一 郡是製糸(株)、竹野工場開設。郡是40年小史</p> <p>4・一 丹後機業界、休機。日出 4・9、5・3</p> <p>5・13 京都市内一流問屋筋のうち、綿布商9店は13日から18日まで、染呉服関東織物問屋筋の</p>	<p>京都織物商同盟会19店は13日から15日まで、一せいに販売を開始。日出 5・15</p> <p>5・17 伏見町の友禅業者24人は4月中旬から休業、休業1カ月に及ぶも加工の委託がないために一時金を支給して、職工500余人全員解雇。日出 5・18</p> <p>5・19 滝井治三郎商店、株式会社に改組(資本金15万円、大15タキイ種苗(株)と改称)。種苗70年</p> <p>5・一 生糸問屋塚本惣助商店倒産。京都金融史</p> <p>6・16 府、丹後地方経済の窮状打開策として、同地の銀行合併を勧誘(この結果、11月宮津銀行(株)は加悦銀行(株)を吸収合併)。日出 6・15、18、8・29、京都銀行20年史</p> <p>7・1 京都市立陶磁器伝習所を京都市陶磁器講習所と改称。市告示332号</p> <p>8・2 丹後水産会社開業(府下3カ所の魚市場を継承し、一般漁業に関する物資の供給等を行なう、資本金50万円)。日出 8・2</p> <p>9・一 『京都日々新聞』創刊。京都商工要覧</p> <p>10・1 京都市立工業研究所設立(京都駅の南側九条に着工、大12完成、大15窯業部新設、市立陶磁器試験所の工場を継承し事業を継続)。京焼百年の歩み</p> <p>10・上 都市の社会政策的事業として市官質屋開設。日出 9・30</p> <p>11・一 機業景気挽回、賃機従業者ようやく復職。日出 11・4</p> <p>12・3 西陣織物同業組合は生糸検査所設置を府に申請(組合が一切の設置を整え、これを府に寄付し、京都府生糸検査所として検査施行するもの)。西陣織物同業組合沿革史</p> <p>12・7 京都製氷(株)設立(壬生高桶町、資本金50万円)。京都氷業史</p> <p>12・一 島本銀行(綴喜郡青谷)、株式会社に改組(資本金100万円)。日出 12・9</p> <p>この年 ▷ 西陣機業に力織機普及(大9・5西陣織物同業組合調査によると、力織機3,344台、従来の大会社所有からようやく個人経営の据付けが半ばしめる)。日出 8・2 ▷ 戦後恐慌、大幅操短、失業者ふえる。<sup>(1)</sup> ▷ 府下産業組合は大9末現在263組合、連合会5(設置町村191で全町村の77%、組合員54,000人、組合出資額700万円)。日出 大10・5・4</p>

参 考	日 本
<p>(1) ① 丹後機業近況 与謝・中・竹野3郡各機業地は休機中であるが、価格も金融梗塞で売買皆無のため各仲買商店・関係筋は至極閑散。竹野郡縮緬同業組合は引き続き5月中も休機することを協定。職工賃は織機足踏織人最高給1反につき賄付1円10銭以上(1日平均2反3歩を織り立て)であったが、標準表より7割を引下げられ賄付1反30銭以下になる。日出 5・3</p> <p>② 不景気で警察官・市電従業員等への志願者増加 景気のパロメーターともいわれる警察官・電車従業員について調査の結果、両者とも好況時代には欠員続きだったが、昨今では志望者頗る多く、京都府巡査教習所・市電三哲車庫等への求職者は10数人あり、現今では農民より都会の失業者の申込者が多い。従業員の欠員は追々補充されている。日出 5・3</p> <p>③ 恐慌来1カ月間の西陣 西陣休機の主要目的は生産調節にあったが、過去1カ月間における西陣の推移を見ると、4・10博多9寸帯地機業家(戸数400余・織機3,000台・職工3,000人)はまず打撃を慮って景気回復期まで休機を決議し、同16日紋織広巾及び9寸帯地業者(戸数600余)休機を断行、同15日朱子機業家(戸数300余)も休機し、お召製織家(戸数400・織機1,000台)も任意休機し、金地伊達帯地・ピロード・金らん類等、それぞれ操短方針に出て、旺盛を極めた機業戸数12,000戸・織機28,000台・職工33,000余人は一時休止するに至ったが、目下休機6分操業4分の状態。 生産は3月に入り735万円と最高を示したが、4月には半減し382万円。日出 5・16</p> <p>④ 清水焼製造業者、職工全員解雇 五条坂辺の各問屋は持品が停滞してどうにもならぬため、本月7、8日ごろ各窯元・製造業者へ無期休業の通告を發した。窯元即ち製造家(五条・清水・馬町・今熊野および蛇ヶ谷付近を通じ約300軒・約2,000人)の方でも無制限に職人を抱えこんでおるわけにもいかず、ついに15日全部にこれを解雇、職工側は非惨な状態におちいり不平の氣勢をあげ、生活難で人心動揺。日出 5・23</p> <p>⑤ 西陣の求職者現状 5・1から西陣小学校内に設置された市職業紹介所の臨時出張所が開所以来取り扱った求職人員は本職959人・内職390人で、男子の需要は専売局・松風陶器会社・梅津製紙場等で、弁当持ちで1日1円から1円80銭、女子は同様40銭以上80銭位。日出 7・2</p>	<p>1・21 生糸相場高騰(上一町4,350円、横浜生糸取引所開設以来の最高値、以後下落)。</p> <p>2・1 日立製作所(株)設立(久原鋳業(株)日立製作所の独立、本社東京、資本金1,000万円、専努小平浪平)。</p> <p>3・15 株式市場、株価暴落で混乱。東京株式取引所は3・16~17、大阪株式取引所は3・16後場と3・17休業。米穀以外の商品市場への影響は軽微(&lt;戦後恐慌&gt;始まる)。</p> <p>4・7 増田ビルブローカーの破綻を契機として第2次大反動、株式市場再び大惨落のため立会い中止(4・7~12)、期米・綿糸・生糸また大惨落。</p> <p>4・12 銀行取付け勃発、恐慌金融界へ波及(6月までに預金取付けのあったもの本店銀行67行、支店銀行102行、うち休業したもの21行)。</p> <p>4・下 全国主要織物産地で5・下にかけて一斉休業づく。</p> <p>5・2 日本最初のメーデー(上野公園、参加1万人)。</p> <p>5・10 大日本紡績連合会、第9次操業短縮実施(1カ月6昼夜休業。6・15、1カ月4昼夜休業、運転時間昼夜各10時間・1割休鍾に強化、8・15さらに1割休鍾増加、9・15、1割休鍾解除、大10・12・15全面解除)。</p> <p>8・2 銀行条例改正公布(銀行合同の手続簡略化、8・22施行)。</p> <p>この年 ▷ 日銀の銀行救済のための支払準備金特別融資、本年中に35行・1億522万円。 ▷ 労働組合273、同盟罷業282件(参加約3万6,000人)、小作争議408件。</p>

大10(1921)年

京	都	府
<p>1・16 大日本産業協会京都支部設立（支部長北村弥一郎）。京焼百年の歩み</p> <p>2・2 府・市・商業会議所連合統計調査会組織され、管内経済事項の統計調査研究を行なう。日出 2・3</p> <p>2・3 三谷伸銅(株)設立（資本金100万円、個人経営からきりかえ）。京都年鑑 昭44、京都貿易史ダイヤモンド会社便覧</p> <p>2・一 富士製氷(株)設立（壬生松原町）。京都市学区大観</p> <p>2・一 京都電灯(株)、滋賀県 信楽水力 電気(株)を合併。大沢善助翁</p> <p>2・一 京都バス(株)設立。京都年鑑 昭39</p> <p>3・1 地理的關係で公設市場を利用できない市民を対象に巡回市場（のち移動市場と改称）を実施、食糧員の市価調節をはかる。<sup>(1)</sup>京都市公設市場の躍進40年</p> <p>3・20 内外産業博覧会を岡崎公園で開催。（南洋館・南米館・支那館等の特設。出品点数81,563点、出品人員4,558人、入場者25万2,129人。～5・22）。京都博覧協会史略、日出 4・2</p> <p>3・25 玉水銀行(資本金5万円、本店綴喜郡)は産業銀行(奈良県、資本金300万円)に吸収合併。日出 3・23</p> <p>3・一 丹後縮緬の小機業家は綿糸布、米価など各商品の暴落により動揺。日出 3・7</p> <p>4・1 安田貯蓄銀行京都支店(烏丸松原上ル)開設。京都貿易史</p> <p>4・10 丹後縮緬三部同業組合設立（組長津原武）。日出 4・14</p> <p>4・一 景気上昇により室町問屋は大9の恐慌による打撃から回復（このころから大福帳は簿記に改められ、家計と店の経理が分離され、店主と住宅の分離が多くなる）。家業</p> <p>4・一 京都商品陳列所を京都市商品陳列所と改称。京都市政史</p> <p>5・14 京都市信用組合設立許可（事務所四条油小路、京都実業無尽(株)の重役が中心で設立を計画、7・1から開業予定。昭7・8解散）。日出 6・14</p> <p>5・28 京都電灯(株)、総会で資本金3,000万円を可決、京都第一の大資本となる。日出 5・12</p> <p>5・一 京都乾物問屋組合設立。京都市中央市場30年史</p> <p>6・10 京都製氷(株)開業（五条料理飲食業同盟会幹部が四条千本東入ルに工場をつくり、同盟会員に安価な氷を供給）。日出 6・10</p>	<p>6・13 京都発明協会成立（工業所有権の保護奨励が目的、稲垣恒吉・島津源蔵・阪根精一等が発起、会長浜岡光哲）。日出 6・14</p> <p>6・25 市は出町・五条・福ノ川・二条・中央・三共組各私設市場を京都市指定市場に決定、7・1から市の標準相場で販売。日出 6・26</p> <p>7・5 戦後発展全国工業博覧会を岡崎公園で開催（～9・5）。日出 7・5、京都商工会議所史</p> <p>7・10 西陣貯蓄銀行（今出川大宮、資本金10万円）は貯蓄銀行法の改正を機に、第百銀行系統の東京貯蓄銀行に合併内定。日出 7・10</p> <p>7・23 宮津銀行(株)、丹後銀行(株)を吸収合併。日出 8・8</p> <p>8・1 丹後3郡の織物組合休機決定（生産過剰と売行き不振のため。8・17から9・15まで）。日出 8・1、14</p> <p>8・8 宮津町営公設市場設置。与謝郡誌</p> <p>8・16 大丸呉服店(資)全焼（損害約70万円、12・1仮建築竣工開業）。日出 8・17、18、大丸250年史</p> <p>9・14 丹後織物与謝・中・竹野同業組合、および同連合会解散、丹後縮緬同業組合設立認可。（組合長津原武、国練検査をめざす）。告示467号、峰山郷土史</p> <p>9・一 京都商工信用組合設立（昭7・2解散）。京都商工要覧</p> <p>9・一 宇治川電気(株)、近江水力電気(株)を合併。宇治電之回顧</p> <p>9・一 関西水力(株)、山城水電（相楽郡木津町、資本金50万円）を合併。日出 9・20</p> <p>9・一 京都絹糸紡績商組合成立（丸紅京都支店役員稲垣庄三郎他発起）。日出 9・21</p> <p>10・7 宇治川電気(株)、大和電気(株)を合併。宇治電之回顧</p> <p>11・8 京都商工貯金銀行、臨時総会で普通銀行に改組、名称を京都商工銀行とし、大11・3・1付で十五銀行に合併決定。日出 11・4、京都金融小史</p> <p>12・3 京都染物同業組合職業紹介部新設（市内約3,500の染物業者は約2万人の労働者を必要とするが、人手払底のため、その斡旋につとめる）。日出 12・2</p> <p>12・一 舞鶴軍港購売組合設立（大11・11解散）。府産業組合史</p> <p>この年 ▷ 自動車次第に普及、360台(免税車除く)になる。<sup>(2)</sup> ▷ 室町問屋安藤・千吉商店、株式会社いきりかえ。家業</p>	

参	考	日	本					
(1) ①	京都における物価値下げへの努力と公設市場 市の物価調節取調委員会は北野・川端・七条市場を大7・9・25開設し、一般小売価額の3割安で販売。同8・10新町頭・12月壬生・正面市場を開設。大10・3から23の店舗を1組とする移動市場（巡回市場）を開設し、市価の1割安で販売。市の公設市場は物価引下げに大きな役割を果たした。京都百年 510	1・15 三菱電機(株)設立（三菱造船(株)の電機部門を継承、本社名古屋、資本金1,500万円）。 2・26 住友総本店、住友合資会社に改組（本店大阪、資本金1億5,000万円、社長住友吉左衛門）。 4・9 職業紹介所法公布（大11・7・1施行）。 4・14 貯蓄銀行法公布（大11・1・1施行）。 4・30 小松製作所(株)設立（竹内鋳業(株)小松鉄工所の独立、資本金100万円、社長白石太士良）。 6・一 株価、上昇に転ずる（＜中間景気＞の出現）。9月株価下落傾向に転ずる。	この年 ▷ 銀行合同さかん（普通銀行45行、貯蓄銀行30行が合併）。 ▷ 会社の解散・減資激増（解散会社の公稱資本金合計5億7,139万円、減資合計2億3,255万円）。 ▷ 貿易収支、毎月入超をしめし、年間3億6,132万円の入超。					
②	累年公設市場売上高 (単位千円)							
区分	七条	北野	川端	新町頭	壬生	正面	巡回	合計
大7	71	84	60	—	—	—	—	215
8	352	400	354	75	29	11	—	1,221
9	453	489	470	447	380	236	—	2,475
10	454	509	518	462	421	274	230	2,868
	日出 大11・2・18							
(2) 諸	車							
区分	自動車		人力車	自転車				
	乗用	荷積用		(二輪、三輪)				
大4	46	—	4,501	13,329				
5	69	—	4,805	15,386				
6	66	—	4,078	19,761				
7	108	—	3,887	30,349				
8	180	—	3,833	40,322				
9	292	17	3,810	51,487				
10	359	44	3,597	62,784				
11	480	105	3,437	78,381				
12	536	151	3,262	101,877 (二輪97,496)				
	(免税車をふくまない)			府統計書				
○	府下の重要同業組合							
	農商務省の調査による、大9・12末現在の全国同業組合総数は1,262・同連合会は58で、うち京都府下は37組合・連合会2。これを業種別にみると蚕種蚕糸13・同連合会1、織物6・同連合会1、米穀1・材木1、紙および同製品1、薬品1、漆器1、酒題2、石炭コークス1、雑9。日出 9・25							



京	都	府
<p>1・一 郡是製糸(株)、大成館(名)(綾部)・一信社(株)(舞鶴)の両蚕種会社を買収合併することとし、3社重役会で承認。 日出 1・14</p> <p>1・一 京都青果問屋組合連合会を設立。 京都市中央市場誌</p> <p>2・一 京都市料理飲食業同業会連合会設立。 京都市料理飯食業連合組合沿革史</p> <p>3・1 生活改善展を京都商業会議所で開催(～7日)。 日出 2・9</p> <p>3・一 津田源次郎、私設市場を開設(伏見紺屋町、18店舗)。 日出 3・15</p> <p>4・1 京都名産品陳列館は、京都名産品陳列協会から無償で京都商業会議所に譲渡され、京都名産館として会議所直営となる。 京都商工会議所史</p> <p>4・1 新舞鶴開港記念博覧会、舞鶴町白糸海岸で開催(3府28県参加、15,000点出品。～5・13)。 日出 4・1、5・6</p> <p>4・1 染物業者約300名、河川使用範囲制限に苦慮(従来の夷川から団栗橋までを南荒神橋から松原橋までとする)。 日出 4・26</p> <p>4・30 京都府生糸検査所竣工(上京区今出川浄福寺東入ル)。 西陣織物同業組合沿革史</p> <p>5・22 西陣織物同業組合、生糸検査所の一切を府に寄付の申請。 同上</p> <p>6・12 京都府生糸検査規則・同施行規則および生糸検査所検査規定を制定(織物用原糸は強制検査)。 府令61号</p> <p>6・20 京都府生糸検査所開所(初代所長産業技師石塚万之介)。 京都貿易史、府令62号</p> <p>6・一 府、銀行類似の営業を取締まる(銀行界の不安により貯蓄銀行類似の会社乱立し、被害続出)。 日出 6・1</p> <p>7・25 京都銀行、第1次安田系銀行への合同参加を決定(11・1、安田銀行京都支店となり、京都の本銀行なくなる)。日出 11・1、京都金融史</p> <p>7・一 増田宗之助、正確で価格の安い実用的電気時計を完成、特許を得て京都で製作を開始。 京都の新興工業</p> <p>7・一 京都カタン糸同業組合経営の輸出糸検査所(本邦唯一)、業界の不振で経営難。 日出 7・21</p> <p>8・1 山城銀行(株)、桑船銀行(株)併合を重役会で決定(これを機に資本金を150万円に増資し、京都唯一の本店銀行として基礎を充実)。 日出 7・31、8・1</p> <p>8・24 京都市、商工相談所(市役所勤業課内)の新設を決定。 日出 8・26</p>	<p>8・一 新京極、市内ではじめて舗装。 京都商工要覧</p> <p>9・11 府参事会は府生糸検査所の機械を神戸生糸検査所に貸与することを決定(関東大震災で横浜の生糸取引機関全滅し、神戸に生糸検査所を急拠設置のため)、10月に至り政府の命令で横浜生糸検査所に貸与。 日出 9・12、23</p> <p>10・11 第4回西陣織物競技大会低調(関東大震災による西陣織物の売行き減少と時節がら豪華品の出品を手控え。～25日)。 西陣織物館記</p> <p>10・一 丹後縮緬不況深刻(大震災の影響で不振をきわめ、人夫土方への転職者多く小機業家は困窮)。 日出 10・15</p> <p>11・5 府・市・商業会議所の三者で東京駅前に京都製品共同販売所を有志業者を集めて6カ月間開設。 日出 10・27、京都商工会議所史</p> <p>11・15 京都市立工業研究所落成式(鉄筋コンクリート2階建て。23万7,000円を投じ有機・無機・電気化学・分析の4部を設置)。 日出 5・24、10・10、京都市政要覧</p> <p>11・一 金箔業界不振深刻(うち続く不振と金沢方面の工費低廉のため、職工の約1/3が離職)。 日出 11・8</p> <p>11・一 松竹京都撮影所設立(太秦)。 京都年鑑 昭30</p> <p>12・1 日本・スペイン間の特恵関税が11・5満期となり、京都扇子団扇業同業組合(組合長阪田文助)は会議所とともに関税引上げ防止を運動、6カ月間特恵税率延長となる。 日出 12・4</p> <p>12・一 信用組合京都相互金庫設立(大和大路四条上ル、昭5・7解散)。 京都商工要覧</p>	<p><b>この年</b></p> <p>▷ 日本クロス工業(株)、わが国最初の繊維素塗料によるクロス、「ビスコースクロス」を発明、製造を開始。 京都百年 429</p> <p>▷ 府下の小銀行・32行(資本金100万円以下)。</p>

参	考	日	本
(1) 関東大震災と京都産業界	<p>① 震災直後、供給不足が見込まれる商品に関連する業界、すなわち、製材・鉄工・精米・捺染・綿布再整・製綿・製粉業等では、生産能力が増強された。例えば、これら業界では、20日間に京都電灯(株)に対し、昼間1,700余馬力・夜間200余馬力の工業用動力の新設を申込んだ。</p> <p>② 織物・染物で西陣等高級織物業およびその関連業界では大きな打撃をうけ、とくに、全生産額の約6割が関東で需要されている西陣は深刻であった。</p> <p>③ 大阪税務監督局の調査によると、京都市では、関東大震災による直接損害額が46社1,563万余円であった。</p> <p>④ 京都の手形交換所における大12下半期の不渡手形は307人で、上半期に比べ79人の増加。これは震災直後の9月上・中旬の約10日間に交換所設置以来の記録的な不渡の続出によるもので、業種別では織物製造業19・呉服店15・綿布太物商12・織物卸商8・縮緬商5と織物関係が多かった。 日出 9・30、10・11、29、大13・1・9</p>	<p>3・30 中央卸売市場法公布、11・1施行。</p> <p>4・19 全国購買組合連合会設立(産業組合購買部門の全国組織、9・1事業開始)。</p> <p>5・15 白木屋神戸出張所、百貨店初の土足入店を実施。</p> <p>7・13 名古屋農産銀行休業、7・18尾三銀行も休業、中京財界混乱、(日銀約1億円の救済融資)。</p> <p>9・1 関東大震災。<sup>(4)</sup></p> <p>9・7 支払猶予令公布(9・1から30日間モラトリアム実施)。</p> <p>9・8 大阪株式取引所再開、株価暴落(下旬回復)。</p> <p>9・一 物価、生活必需品・建築材料を中心に高騰(日銀東京卸売物価指数総平均、前月比約10%上昇。大14・2以降下降)。</p> <p>11・1 安田系銀行大合同、安田銀行(株)はじめ12行合併し、安田保善銀行(株)を設立。同時に安田銀行(株)と改称(資本金1億5,000万円。頭取2代安田善次郎)。</p>	<p><b>この年</b></p> <p>▷ 地方銀行の合同さかん(合同参加行数158)。</p> <p>▷ 貿易収支毎月入超となり、年間5億3,448万円の輸入超過。</p>

京	都	府
1・22 新京極大火。明治座(六角新京極北角)から出火(損害約100万円)。 日出 1・24		9・27 京阪電鉄は臨時総会を開き、京津電軌鉄道との合併契約を可決(大14・2・1合併実施)。 日出 9・28
1・25 日本商工銀行、西陣・七条・大阪等の各支店の廃止と行名を愛宕銀行と改称することを総会決議。 日出 1・26		10・一 東邦窯業(株)設立(東九条南松ノ木町)。 京都年鑑 昭44
2・14 西陣広帯新製品春錦会展覧会を美術クラブ(市役所前)で開催(野淵亀吉等の広帯機業者および9寸帯機業者が春錦会を結成し、西陣の新趣向宣伝のため展覧。～2・15)。 日出 2・14		10・一 京都胞衣(株)創立(紀伊郡烏羽村、資本金10万5,000円、代表取締役広野幸三)。 日出 10・19
2・一 宇治川電気(株)、大同電力(株)と電気需給契約を締結。 宇治電之回顧		11・10 西陣、改正価格で消費税を徴収される(全国的に絹綿とも平均5分方引下げの標準価格が主税局で認められ、西陣だけで年額20万円の軽減)。 日出 11・11
3・8 京都商業会議所直営の京都名産館(京都駅前)、陳列場を44小間(これまでは105小間)拡張。 日出 3・9		11・13 丹後の銀行合同協議会開催、池田知事以下丹後7銀行(丹後倉庫・宮津・丹後産業・久美浜・丹後共立・丹後商工・平野の各銀行)が府庁にあつまり、合同問題やや進捗。 日出 11・15
3・14 京都市会、中央卸売市場建設案を可決。(建設費40余万円)。 日出 3・15		11・18 市部参事会が、京都府生糸検査所廃止と事業の組合移管を府会に提案、西陣織物同業組合の猛反対で紛糾。 日出 11・19～26
4・5 都ホテル増築完成(片岡工学博士設計、6階建て、増築費100万円)。 日出 4・6		12・30 丹後商工銀行(株)、丹後倉庫銀行(株)を13万470円で買収。 日出 大14・1・9、京都銀行20年史
4・一 伏見丹波橋公設市場開設。 京都市政要覧		
4・一 京都信用組合連合会設立。 府産業組合史		
5・21 お召業者隆織会総会、不況対策として、6・1から1カ月間休機を決定。 日出 5・13		この年 ▷ 愛知・明治・野村・十五・島本・神田・安田の各銀行、京都支店および出張店の新設・新築等を行なう。 日出
5・一 丹後縮緬減産(休機続出の形勢で5月の生産額は前月比4割減)。 日出 5・25		▷ 京都経済界、前半期の活況から後半不況となる。 <sup>(1)</sup>
5・一 染物界不況(西陣の不況につれて採算悪化)。 日出 5・27		
5・一 京都洋家具業組合設立。京都商工要覧		
5・一 京都電灯(株)は榎尾水力電気(株)を買収。 京都電灯50年史		
6・1 西陣の博織会、この日から当分休機を決定。 日出 5・29		
6・一 富士製紙(株)、梅津製紙(株)を吸収合併。 王子製紙社史		
6・一 加工綿布は震災需要を見こし生産過剰で不況となる。 日出 6・28		
7・5 京都電灯(株)は、帝国電化所有の清滝川水力発電所(750kw)買収仮契約を締結。 日出 7・5		
8・10 丹後商工銀行(株)、経営難の丹後起業銀行(株)(竹野郡)を吸収合併し、網野支店とする。 日出 8・14		
8・一 府財政行き詰まる。このため府は政府の緊縮方針にのっとり、14年度予算・13年度既定予算および追加の緊縮をはかる。 日出 8・26		

参	考	日	本
(1) 京都産業は大7下半年から、やや盛んとなり、8年中頃にその極点に達し、9・3の暴落から4～5月頃最下降となり、下半年小康をえて、10年下半年までは不況期ながら順調に運び、下半年から一せいに下降して11年前半をすごし、同年末からやや盛りかえし、12年関東大震災で不自然な活況を示したが、大13・7初旬を境として再び不況となる。 日出 大14・5・8		1・24 神戸市、市立神戸生糸検査所を開設(横浜港の生糸輸出独占破れる)。	
○府下大工場の共済組合 府下工場中職工200名以上を使用する工場で共済組合のあるものは、		3・7 全国製糸業者大会、糸価調節を決定(10日間全国一せいで休業、八王子格2,020円以下では不売など)。	
共済組合名 組合数 組合員 共済組合名 組合数 組合員		3・一 月間貿易収支、1億9,097万円の入超(これまでの最高)。	
郡是共済会 9 4,270 日清紡績共済会 1 602		7・1 度量衡をメートル法に統一する改正法案実施(メートル法を度量衡の基本とし、取引・証明の場合に強制。実際は方針を示すにとどまる)。	
鐘紡共済組合 4 7,300 京都瓦斯共済会 1 277		7・26 大蔵省、地方銀行合同促進を地方長官に通牒。	
辻紡慶弔会 1 47 合計 16 12,496		この年 ▷ 年間輸入超過額、6億4,637万円(これまでの最高)。	
12年度中給付受給者は件数6,406件・金額64,626円で、現在各組合の基金または積立金は157,102円(鐘紡・日清紡は本社で総括のため除く)。 日出 5・25			
○京都府下における株式会社資本の移動状況 日本興業銀行の調査による大13中の状況を大12中と比べると次のとおり。			
区分	大正13年中 社数 資本金	大正12年中 社数 資本金	
新設	59 千円 7,699	28 千円 6,128	
増資	11 2,471	5 390	
社債	4 800	1 250	
減資	11 2,205	4 1,212	
解散	28 11,600	16 8,055	
		日出 大14・1・18	

京 都 府	京 都 府
<p>1・7 京都商業会議所、京都貿易協会等で運動中の大阪税関梅小路管内における保税倉庫設置が認可され、村井倉庫の一部を充当。 日出 1・13</p> <p>1・12 丹後精練倉庫(株)設立(丹後における国練り検査事業の第一歩として、丹後縮緬同業組合を中心として設立。資本金100万円、社長吉村伊助)。丹後機業の歴史、峰山郷土史</p> <p>2・9 京都重要物産同業組合協会発足。 日出 2・11</p> <p>2・19 伏見銀行(資本金50万円)は東京川崎銀行(資本金1,000万円)と姉妹銀行として提携、経営者を川崎銀行に一任。 日出 2・20</p> <p>3・10 京都工場協会業務開始(工場法施行以来10年になるが、工場経営者に趣意が徹底せず、手続等にくいちがいを生じたので、中間にあって円滑を図る京都府工場協会を私立京都工場協会に改め、工学博士細木松之助を会長として業務開始)。 日出 3・10</p> <p>3・15 京都府立茶業研究所落成、同所に模範製茶工場を設ける。 日出 3・12、大15・3・16</p> <p>3・一 京都市、巡回市場を廃止。 京都市政要覧</p> <p>3・一 井上電機製作所(株)設立。 京都年鑑 昭39</p> <p>3・一 竹野郡は機業不振のため休機に近い状態。賃金も切下げ一方。 日出 4・12</p> <p>4・1 生糸の強制検査・撚糸検査を検査所で実施することとなる(3・24 京都府生糸検査規則改正による)。 日出 3・11、25</p> <p>4・一 春以来の機業不況で、西陣でも、金らんその他特殊織物以外は採算がとれず、整理をする機業家が続出。 日出 4・27</p> <p>5・一 京都染物(株)設立(万寿寺醒ヶ井東、京染悉皆業、資本金30万円、取締役神中数雄他)。 日出 5・5</p> <p>5・一 浜口鳳梨(株)設立(浜口(名)の一部が独立、果実のかん詰製造、資本金25万円。取締役浜口富三郎他)。 日出 5・5</p> <p>6・1 藤井(株)設立(絹紡糸・毛糸等の卸販売、資本金100万円(全額払込み)。取締役藤井彦四郎他)。 日出 6・3</p> <p>6・2 京都市中央卸売市場開設認可をうける(建設費420万円で、12月下旬区中堂寺南町に起工、昭2・4・20 竣工、12・11 開業。取扱品は魚類・肉類・鳥類・卵類・蔬菜類等)。 京都市中央市場30年史、京都商工要覧、 日出 6・3</p>	<p>6・12 京都ではじめて紙函製品の展示会を京都商品陳列所で開催(～18日)。 日出 4・13</p> <p>6・一 京都市、公設市場を4カ所増設決定。 日出 6・17</p> <p>6・一 京都重要物産輸出組合設立(絹織物・扇子・陶磁器等の業者で組織、組長阪田文助)。 日出 6・20</p> <p>6・一 安田信託(株)京都支店開設。 京都商工要覧</p> <p>7・一 京都市立工業研究所、電鑄を完成(電鑄(エレクトルタイピング)は象嵌、その他の金属模様にも広く利用され、費用のかからない金工品が製造できる。研究者は猪飼博)。 日出 7・4</p> <p>8・5 京都府銀行協会設立。第1回協議会開催(府下の本店銀行33行の有機団体をつくり、預金利率の協定・相互救済・合同機運の推進をはかるため、府幹旋)。 日出 8・5、府の商工業</p> <p>9・7 四方(合)(明38設立)を改め、宝酒造(株)設立(資本金50万円、10・1、200万円に増資)。 京都百年 534、544</p> <p>10・16 京都電気同業組合設立(同業者約120人参集、組長小松公平博士、組合員は電気工事請負、材料販売業者)。 日出 10・17</p> <p>10・一 京都塗装看板組合設立。京都商工要覧</p> <p>11・30 三菱銀行京都支店新築開店(大13・3 起工。鉄筋4階建て)。 日出 11・21</p> <p>11・一 四条通に街灯完成。 財界半世紀</p>

参 考	日 本																																			
<p>○人造絹糸の発達と京都 京都商業会議所調査によれば、京都市における人造絹糸の需要増加にともない柞蚕糸の需要が激減。人造絹糸と柞蚕糸は工業用繊維として用途がほとんど同じであるが、人造絹糸は価格が約半値、光沢佳麗で収縮度が少ない。京都市の柞蚕糸輸入統計をみると、大10年度輸入額520万9,000円が、大13年度には220余万円に激減している。柞蚕糸を混用した織物の7～8割までは既に人絹を代用。 日出 9・4</p> <p>○この年中の京都の新設会社 京都商業会議所調査によれば、本年中に新設された本店会社は株式32・合資147・合名51、合計230社で、資本総額は1,081万60円・払込み資本金806万1,560円となり、前年に比べ会社数26社・資本金377万3,060円・払込み資本金210万9,560円の増加。これを製造・販売業等別にみると次のとおり。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区別</th> <th>株式</th> <th>合資</th> <th>合名</th> <th>計</th> <th>資本総額 円</th> <th>払込み資本 円</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>製造</td> <td>3</td> <td>20</td> <td>4</td> <td>27</td> <td>573,400</td> <td>489,000</td> </tr> <tr> <td>販売</td> <td>18</td> <td>108</td> <td>37</td> <td>163</td> <td>3,803,910</td> <td>3,404,810</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>11</td> <td>19</td> <td>10</td> <td>40</td> <td>6,432,750</td> <td>4,167,650</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>32</td> <td>147</td> <td>51</td> <td>230</td> <td>10,810,060</td> <td>8,061,460</td> </tr> </tbody> </table> <p>日出 大15・2・14</p>	区別	株式	合資	合名	計	資本総額 円	払込み資本 円	製造	3	20	4	27	573,400	489,000	販売	18	108	37	163	3,803,910	3,404,810	その他	11	19	10	40	6,432,750	4,167,650	計	32	147	51	230	10,810,060	8,061,460	<p>1・29 武田長兵衛商店設立(昭18武田薬品工業(株)と改称)。</p> <p>2・28 大阪放送局設立免許、6・1 仮放送開始。</p> <p>2・一 日本フォード自動車(株)設立(本社横浜、資本金400万円、ノックダウンを行なう。昭11・9・19自動車製造事業法による組立台数制限を受け、昭15事実上販売停止)。</p> <p>3・16 東京電力(株)設立(東邦電力系の早川電力(株)・群馬電力(株)の合併、本社東京、資本金4,225万円)。</p> <p>3・30 輸出組合法公布(輸出振興・中小輸出業者保護などが目的。9・1施行)。</p> <p>3・30 重要輸出品工業組合法公布(アウトサイダー規制を含むカルテル立法、昭6工業組合法に改正。9・1施行)。</p> <p>3・31 農商務省を廃止し、農林省・商工省を設置する旨公布。</p> <p>3・31 震災手形割引の期間延長に関する件公布。</p> <p>4・15 日銀、公定歩合を2厘引下げ、2銭とする。</p> <p>5・一 日銀の兌換券発行高・一般貸出高、震災以来の最低を記録。</p> <p>12・1 野村証券(株)設立。</p> <p>この年 ▷ 政府、財政緊縮方針を貫く(大14年度一般会計歳出は前年度より約1億円減少)。</p>
区別	株式	合資	合名	計	資本総額 円	払込み資本 円																														
製造	3	20	4	27	573,400	489,000																														
販売	18	108	37	163	3,803,910	3,404,810																														
その他	11	19	10	40	6,432,750	4,167,650																														
計	32	147	51	230	10,810,060	8,061,460																														

京	都	府
1・10 新舞鶴商業銀行設立(佐治銀行を新舞鶴町に移し、名称を改め新舞鶴町の本店銀行として発足、資本金100万円)。 日出 1・10		7・一 西陣・丹後織物業界、原料糸価低落と秋高期待に刺激され活況を呈す。 日出 8・6、7
2・16 京都染物同業組合、ドイツ染料輸入制限撤廃について農商務大臣に陳情。 近代友禪史		9・1 乙訓・山崎両銀行は解散して、資本金110万円の乙訓銀行(株)(向日町の旧乙訓銀行跡)を設立。 日出 8・31
2・23 京都文具商工組合設立(組長荒木虎之助)。 日出 2・24		9・10 関西信託会社京都支店開設(室町六角の旧三菱銀行京都支店跡)。 日出 9・4
2・一 京都染再整(株)、東洋クロス(株)と改称。 東洋クロス史		10・7 わが国最初の試みとして、全国の有力染織物販売業者を招き、京都染織見本市を開催(入場者4,000人、売上高1,364万円、出品商社98人。岡崎第二勸業館を第1会場とし、各店舗を第2会場とする。～9日)。 京都商工会議所史
3・17 輸出組合法による京都市対米輸出組合設立(発起人阪田文助、米国への輸出振興を目的)。 日出 3・19		10・15 西陣信用組合開業(今出川大宮東入ル、組合員のための金融機関。9・1認可)。 西陣織物同業組合沿革史
3・29 上海見本市開催され、京都市の重要物産をはじめ海外で即売・宣伝(～4・7)。 日出 1・24		10・一 西陣振興会、買継制度実施。 <sup>(1)</sup> 織物の西陣
3・一 伏見銀行、川崎銀行伏見支店となる。 田中源太郎翁伝		11・11 染織見本市の成功に端を発して、京都の特産品卸業者により京都見本市協会創立総会を開催。 日出 10・27、11・3、13
3・一 西陣帯問屋岡慶商店(資)設立。 帯屋50年		11・20 ジャパン・トレード・ビュロー設立(事務所烏丸四條下ル、理事鷲野米太郎他、通商上の代理および利用機関として、直輸入入業務を行なう)。 日出 11・22
4・1 京都市勸業館付属商品陳列所を京都市工芸館と改称(3・31工芸館規則を定める)。 市条例3号		11・27 京都電灯(株)、若狭電気(株)・敦賀電気(株)との吸収合併を決定。 日出 11・28
4・1 京都市陶磁器講習所は市立工業研究所に移り、同所の窯業部となる。 市条例3号、京焼百年の歩み		12・1 京都印刷同業組合認可(地区は京都市一円、組合員の営業の種類は活版印刷・写真製版・活字販売・鉛版業、発起人総代寺本周三)。 告示653号
4・30 京都市、指定市場制度廃止(二条市場・福ノ川市場・頂妙寺市場の監督廃止)。 市告示174号		12・10 京都悉皆同業組合は商業会議所で会合、京都染物同業組合要求の染工賃支払期日改正(60日を30日とする)を可決。 日出 12・11
4・一 何鹿銀行(株)(資本金5,000円)、北鹿銀行(株)(資本金5万円)を合併。 日出 4・2		12・22 日本レース(株)設立(西ノ京春日町、資本金50万円、昭2・8操業開始)。 京都貿易史
4・一 西陣織物同業組合、織物消費税査定標準価格調査委員会を設置(織物消費税の交付金制度(大8・4・1実施)について、織物の査定標準価格を調査し、税負担の公平を期すため)。 西陣織物同業組合沿革史		12・一 西陣機業9,605戸。 <sup>(2)</sup> 日出昭2・3・24
5・1 桃山酒造(資)設立(伏見町、清酒醸造販売および仲立、代表社員奥田清兵衛他)。 日出 5・1		この年 ▷ 外人入浴客減少につき府・市・商業会議所で足留め策を研究(10月中507名、大14・10中750名)。 <sup>(2)</sup>
5・一 大阪の三越・大丸呉服店の下足廃止(5・15)によりやがて京都でも実行の見込み。 日出 5・14		
6・3 丹後精練倉庫(株)、精練所を中郡峰山町・口大野村・竹野郡網野町・与謝郡加悦町・岩滝町の5カ所に設置決定。 日出 6・7		
7・1 皇孫御生誕記念こども博覧会開催(岡崎公園)。 日出 7・4		
7・27 京都小売市場連合会発足(事務所市役所市場課内、会長安本利之助)。 京都市中央卸売市場誌		

参	考	日	本
(1) 西陣振興会では取引改善を主眼とした買継制度を計画、大15・10から実施。買継制度は組長が一定人数の買継人を指定し、買継人は自分で製品を買取らず手数料によって売買を斡旋し、代金の即時決済を行ない、歩引・数引・金利引等を廃止した。しかし多数の仲買問屋筋の中から200余人を指定して買継業を独占させるという方策は破綻の素因を含み、まもなく有名無実となる。		1・12 東洋レーヨン(株)設立(本社東京、資本金1,000万円、会長安川雄之助)。	
		3・17 日本レイヨン(株)設立(本社大阪、資本金1,500万円、社長菊池恭三)。	
		6・24 倉敷絹織(株)設立(昭24倉敷レーヨンと改称)。	
		7・1 新工場法が実施され、操業時間9%短縮。	
		9・下 株式・生糸・綿糸相場暴落(貿易不振・為替高などのため)。	
		10・4 日銀、公定歩合をさらに2厘引下げ、1銭8厘とする。	
		12・25 昭和と改元。	
(2) 来遊外国人			
大正元	6,678人	9	3,246人
2	8,967	10	6,584
3	8,005	11	7,090
4	4,350	12	?
5	5,849	13	?
6	7,015	14	7,481
7	6,783		
8	8,016		
			府統計書 大15
(3) 西陣機業(大15・12現在)			
機業家数	9,605戸	{ 自 営 4,032戸 賃 機 5,573	
機 数	21,352台	{ 自 営 11,751台 賃 機 9,601	
機 種	〃	{ 手織機 16,754台 力織機 4,541 足踏機 57	
従業者	30,881人		